

# 確かな学力育成プラン

～ すべての子供たちの可能性を広げるために ～

平成21年3月

仙台市教育委員会

# 目次

「確かな学力育成プラン」の趣旨等について		V 本市の確かな学力育成施策の検討の方向性	38
1 「確かな学力育成プラン」の作成の背景	3	○ 全体構成図	38
2 プランの趣旨等	6	○ 学校現場, 保護者の意見	40
3 プランの目標等	7	○ 事業等一覧	41
I 育成すべき「確かな学力」		(A) 教育指導手法の充実(概念図・施策の関連)	42
① 学校教育における「学力」の位置付け	10	① 指導手法・教材の開発・提供	44
② 概念図	11	② 授業力向上のための研修・指導	45
II 確かな学力育成の必要性		③ 学習意欲・関心の向上に資する授業等の実現	46
① 概念図	12	④ 読書活動の推進	46
② 社会の変化と必要な能力	13	(B) 指導体制の充実(概念図・施策の関連)	47
③ 学力の概念の明確化・共通化	16	① 少人数指導の推進	49
III 本市の児童生徒の現状(概念図)	19	② 小学校教科担任制	49
① 基礎的知識の課題	20	③ 小中学校の連携の強化	50
② 応用力の課題	21	④ 教員の資質・能力の向上	50
③ 学習意欲の課題	23	(C) 確かな学力を育成する上で前提となる環境の整備 (概念図・施策の関連)	51
IV 本市の児童生徒の課題の分析		① 落ち着いた授業の成立	53
① 概念図	24	② 学校業務の軽減・効率化	54
② 学校等へのヒアリング調査について	26	(D) 家庭や地域の教育環境の充実(概念図・施策の関連)	55
③ 「基礎的知識」と「応用力」に共通する課題	29	① 企業や大学との連携, 生涯学習施設の活用 による教育活動の充実	57
④ なぜ基礎的知識が徹底されないのか	31	② 地域と連携した幅広い体験活動の充実	58
⑤ なぜ、「応用力」に課題があるのか	32	③ 家庭での学習の充実	59
⑥ 現場の教職員の意見	35	(E) 児童生徒の学力・学習状況の的確な把握	60
⑦ 関連する各種データ	35	結びに	61
⑧ 応用力に関する他地域との比較	36	* 資料編	62~72
⑨ 読書活動に関する分析	37		

## 1 「確かな学力育成プラン」の作成の背景(1) (\*)以下「プラン」と略

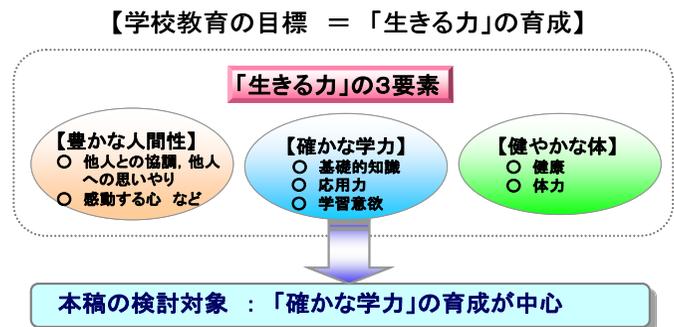
### はじめに

本市の学校教育の目標は、児童生徒の知・徳・体、すなわち「豊かな人間性」「確かな学力」「健やかな体」をバランスよくはぐくむことである。

本プランは、これらのうち「確かな学力」の育成を主に対象としたものだが、これは、IT化の急速な進展や国際競争の激化など社会経済の在り方が大きく変化している中、子供たちが将来、仕事や実生活で頻繁に直面するであろう、判断に迷う困難な状況を、自らの力で克服する力、つまり社会で自立し、「生きる力」を育成することを最終目標としている。

そのためには、単にテストの点数を上げることのみを目的とする近視眼的な施策ではなく、社会で生き抜く力、すなわち「基礎的知識」はもちろんのこと、思考力、判断力、表現力等の「応用力」、主体的に学習に取り組む態度である「学習意欲」などを含む広い意味での学力＝「確かな学力」を育成するという観点に基づく施策を、幅広く実施していくことこそが肝要であるとする。

本プランの実施により、すべての子供たちの可能性を広げる公教育の実現を目指していきたい。



### 本プランにおける学力に関する主な語句

本プランにおいて使用する「学力」とは、学校教育法第30条第2項にある「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う」という規定に基づいている。しかし、論を進めるにあたって、以下のような略称等を用いることとする。

① 「基礎的な知識及び技能」を「基礎的知識」と略して使用する

② 「基礎的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」を「応用力」と呼ぶこととする。  
必要に応じて、「応用力(思考力、判断力、表現力等)」と併記して使用することもある

\*「応用力」は、いわゆるペーパーテスト上の、「基礎問題」と対比した上での「応用問題」を解く力のような狭い意味でなく、実生活において基本的知識を活用し、課題解決する上で必要となる思考力・判断力・表現力等を含む力。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」を「学習意欲」と略して使用する

### (1) 社会経済の変化と学力概念の明確化等

○ 本市は、平成12年度に策定した「仙台まなびの杜21—仙台市教育ビジョン—」で、「これまで社会を支えてきた仕組みが大きくゆらぎ、変貌する中で」、「新世紀を生きる力」の一つとして、「自ら学び考える力」を掲げ、基礎的・基本的知識の習得や、問題把握力、考える力、課題解決に主体的にとりくむ意欲等の育成を図るものとし、以後、その実現に努めてきた。

○ 「仙台まなびの杜21」で示した「社会を支える仕組みの変貌」という状況は、近年の情報化の急速な進展等と相まって、現在、一層進展している。

社会・経済の有り様が、急激、かつ持続的に変化している現在、「これから社会に出て行く子供たちが身に付けるべき力」が、改めて問われている。

○ このような中、我が国では、平成19年度に施行された改正学校教育法において、小学校、中学校等の教育にあたり特に意を用いるべきものとして「基礎的な知識及び技能」、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」が掲げられた。

これは、OECDが平成15年に、「変化、複雑、相互依存」に特徴付けられる社会の中で、必要な能力として、キー・コンピテンシー(\*)を提示したことと軌を一にしている。

○ さらに、これらの学力に関する概念の明確化と併せ、我が国では全国学力・学習状況調査を、また、OECDは2000年から3年おきにPISAを実施しており、その中で、我が国の児童生徒の、学習意欲を含む学力の課題が明らかになってきた。

#### \*

キー・コンピテンシーとは...  
OECDは「単なる知識、技能だけでなく、様々な心理的、社会的なリソースを活用し、複雑な課題に対応する能力」と規定している。

### (2) 「学力」の再確認と、その向上に向けた取組の検討

○ これらの状況を踏まえ、本市として改めて、小・中学校の児童生徒に関し、向上を図るべき学力について、次のように再確認を行った。

・ 「応用力」は、上記のような社会経済情勢の中、仕事上、また、日常生活上、適切な判断をする上で必要な能力である。

さらに、従来の発想にとらわれず、新たな視点から問題を解決し、また、新たな価値を生み出す力、すなわち創造力の育成において、「応用力」は不可欠である。

それ故、各種の学力検査において良い結果を収めるといった、近視眼的な考え方でなく、子供たちが今後の社会で生き抜く力を身に付けるという観点から、その育成を図るべきものである。

繰り返しとなるが、本稿における「応用力」は、いわゆるペーパーテスト上の、「基礎問題」と対比した上での「応用問題」を解く力のような狭い意味でなく、実生活において基本的知識を活用する際に必要となる思考力・判断力・表現力を含む言葉として使用するものである。

・ もちろん、応用力の育成には、その土台となる基礎的知識の徹底を図らねばならない。

そもそも、義務教育で習得すべき基礎的知識、すなわち、「読み、書き、計算」を始め、例えば、社会の仕組みや地理など社会生活上の基本的な知識、人間や自然に関する基本的な科学的知識等は、仕事上、実生活上、不可欠である。

こうした、基礎的知識の徹底を図るための措置を講ずる必要がある。

・ さらに、基礎的知識の習得や応用力の育成にあたり、学習意欲は欠かせない。特に、応用力育成には、複雑な未知の問題への対応が求められ、より高い学習意欲や学習内容への興味・関心が求められる。

また、社会に出た後も主体的に学び続けることが求められる現在、学習の内容への高い興味・関心、主体的に学ぶ喜び等を義務教育期間中に涵養することは、極めて重要であると考えられる。

○ 社会・経済の状況が激しく変化している現在、これらの学力、すなわち「確かな学力」の育成を一層図る必要がある。

そのため、本市の児童生徒に関する、「確かな学力」の状況を把握・分析し、その対応のために必要な施策を検討・実施することが不可欠と考え、プランを作成するに到ったものである。

## 2 プランの趣旨等

### (1) プランの趣旨

○ 1に述べた「確かな学力」に関する本市の児童生徒の現状や、学校教育を取り巻く課題等を把握・分析するため、全国学力・学習状況調査、本市の標準学力検査、PISA等の学力検査の結果の分析を行うとともに、学校等へのヒアリングを行った。(詳細は P26,27,29,30,34,40)

○ その結果、「基礎的知識の習得が十分でない子供への存在」や「子供たち全般における応用力(思考力, 判断力, 表現力等)の課題」等の学力の課題があり, その原因として, 学校現場での人員や研修の不足等を考えたところである。

さらには, 学校現場で, 教員が子供と向き合う時間の減少や, 子供たちが授業に集中できない状況の発生など, 学力向上を図るに当たっての前提として, まず対応すべき課題があることも, 改めて把握した。

○ このように多くの課題がある中, ある特定の課題に対応する特定の事業を単発的に行っても効果は半減する。

そのため, 諸課題に対応する事業をそれぞれ検討した上で, それらの事業を「ある事業が効果を上げるためには, その前提を充たすための事業の実施(具体的には, ①まず, 学力向上の前提条件を整備し, ②その上で指導体制を整備し, ③その上で, 優れた指導手法のためのカリキュラム開発等の充実)」というように, 必要な諸施策を系統的, 体系的にとりまとめたものが本プランである。

このように, 様々な課題に対して体系的に対応することで, プランに掲げる各事業の効果が十二分に発揮できるのではないかと考えられる。

### (2) プランの位置付け

○ プランにおいて向上を図る学力は, 「基礎的な知識」, 「応用力」, 「学習意欲」であるとしたが, これは, 「仙台まなびの杜21」で示した「基礎的・基本的知識の習得, 考える力, 課題解決に主体的に取り組む意欲」と, その目指すものに変わりはない。

それ故, 「確かな学力育成プラン」は, 現在の学校教育を取り巻く状況を的確にとらえ, 事業の拡充や新規事業の実施により, 「仙台まなびの杜21」の一層の推進を図るものとして位置付けられる。

### (3) プランの構造(各章間の関係)【詳細は9ページへ】

〔I章〕本市が育成しようとしている学力の提示  
基礎的知識・応用力・学習意欲

〔II章とIII章〕なぜ今, I章で示した確かな学力の育成に関して検討するのか, その必要性の説明

〔IV章〕III章で示した, 本市の子供たちの学力の課題とその背景の分析

〔V章〕IV章を踏まえた, 教育体制全般にかかわる, 確かな学力育成施策の検討の方向性

(1) プランの目標

- 習得が十分でない子供へ基礎的知識の徹底
- 応用力(思考力, 判断力, 表現力等)の育成
- 学習意欲の向上

\* プランの目標への達成等を見ていくために、以下の参考とすべき指標を定め、市教委が進行管理を行っていく。

参考とすべき指標

① 基礎的知識の習得

- 仙台市標準学力検査の基礎的な問題における期待正答率と同等以上の児童生徒の割合
- 全国学力・学習状況調査の問題Aにおける各教科別学力層(\*1)の割合(\*2)

\*1 学力層とは、本調査の集計対象となった児童生徒全員の正答数分布の状況から四分位により分類し、正答数の高い順、学力層A、学力層B、学力層C、学力層Dとしたもの。

\*2 全国の学力層の割合をそれぞれ1とした時の、本市の学力層の割合の比の値を比較する。(層を25%ごとに分けているが、正解した問題数で分けている関係で増減があるため、割合でなく割合の比を指標とする。)

② 応用力の育成

- 仙台市標準学力検査の応用力を測る問題における期待正答率と同等以上の児童生徒の割合
- 全国学力・学習状況調査の問題Bにおける各教科別学力層の割合

\*3 両調査はペーパーテストであるので、応用力のすべてを測ることはできないため、この他に、現場の教員対象の調査等を行い、これらを補完していく。

③ 学習習慣の定着, 確かな学力育成に資する活動

- 予習・復習の定着率(全国学力・学習状況調査質問紙調査(以下略)問27,28)
- 読書量の増加, 読書が好きな割合(問18,53)
- 「授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」割合(問48)
- 「総合的な学習の時間の授業で新しいことを発見できると思う」割合(問46)

④ 学習意欲の向上

- 国語の好きな割合, 大切だと思う割合(問50,51)
- 算数が好きな割合, 大切だと思う割合(問61,62)
- 「新しい問題を解いてみたい」と思う割合(問64)
- 「解き方が分からないときに、あきらめずにいろいろな方法を考える」割合(問65)

⑤ その他,波及効果としての生きる力の向上に関するもの

- 自己肯定感「自分には、よいところがあると思う」割合(問7)
- 将来の夢や目標を持っている割合(問8)
- 「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」割合(問6)

(2) 「確かな学力育成室」の新設

- 本プランの円滑な実施のため、下記の業務を行う「確かな学力育成室」を新設する。

「確かな学力育成室」

- ・ 児童生徒の学力育成施策の一元化を図り、検査内容の検討から結果に対する改善支援まで対応するとともに、学力向上諸施策の企画・調整・実施
- ・ 改善支援については、市内全校の対応だけでなく、特に、学力を中心課題としている学校を支援する施策も実施

(3) プランを実施するに当たって

- 今年度行った学校等へのヒアリングの結果、改めて分かったように、社会状況が近年変化し、学校に様々なものが求められる中で、教職員一人一人は、工夫を凝らしながら努力を積み重ねてきた。  
また、多くの保護者や地域の方々が、ボランティアとして子供たちの教育に携わっていただいている。
- 学力検査の点数のみで、その成果を測るべきではないが、全国学力・学習状況調査で本市の児童生徒の正答率が全国平均を上回ることなどは、それらの努力の成果と、正當に評価されるべきであろう。
- 本プランは、そのような教職員、保護者、地域の方々の努力を支援すべく立案したものである。  
今後、本プランの事業が、教育の現場で真に効果的なものであるよう、ご意見を真摯に受け止めながら、プランの実施に努めてまいりたい。

〔Ⅰ章〕本市が育成しようとしている確かな学力の提示

基礎的知識・応用力・学習意欲

〔Ⅱ章とⅢ章〕

なぜ今、Ⅰ章で示した確かな学力の育成に関して検討するのか、その必要性の説明

〔Ⅱ章〕子供たちが、現在、そして近未来に直面する現実

実社会を生き抜く上で、応用力が一層重要に:

- 昨今の社会経済の急激な変化 → 工作上, 日常生活上, 判断に迷う未知の状況に, 頻繁に遭遇  
→ 「応用力」(思考力, 判断力, 表現力等)が, 一層重要に。(応用力を支える基礎的知識の習得, 高い学習意欲も欠かせない。)
- 併せて, このような社会と必要な能力の変化に連動した, 日本と世界での学力概念の明確化と共通化, すなわち, 「応用力」の重視。



〔Ⅲ章〕Ⅱ章で示したような「実社会で応用力が一層重要に」という中での、本市の子供たちの学力の状況の分析と、課題の抽出

- ① 全般的な傾向として基礎的知識はほぼ定着。一方で, 基礎的知識の習得が十分でない子供も残念ながら存在。
- ② 応用力に関して課題がある。PISAの平均得点はこの6年間(2000年→2006年)で低下。
- ③ 勉強の意義の理解が不十分な子供が少なからず存在。自主的な学習に消極的な傾向。

〔Ⅳ章〕Ⅲ章で示した、本市の子供たちの学力の課題とその背景の分析

- 学校や地域の教育体制の問題, 児童生徒の学習意欲や学習習慣の問題

〔Ⅴ章〕Ⅳ章を踏まえた、教育体制全般にかかわる、確かな学力育成施策の提示

- 教育指導手法の充実
- 指導体制の充実
- 確かな学力を育成する上で前提となる環境整備
- 家庭や地域の教育環境の充実
- 児童生徒の学力・学習状況の的確な把握

- 本市の学校教育の目標は「生きる力」の育成であり、その構成要素は「豊かな人間性」「確かな学力」「健やかな体」である。
- このうち、本プランでは、「確かな学力」の育成を検討する。

## 【学校教育の目標 = 「生きる力」の育成】

### 「生きる力」の3要素

#### 【豊かな人間性】

- 他人との協調, 他人への思いやり
- 感動する心 など

#### 【確かな学力】

- 基礎的知識
- 応用力
- 学習意欲

#### 【健やかな体】

- 健康
- 体力

### 本稿の検討対象 : 「確かな学力」の育成が中心

・現在, 社会経済が大きく変化。  
⇒ 実生活で, 判断に迷う場面に多く遭遇。



その中で生き抜くために必要な学力(基礎的知識, 応用力, 学習意欲)の育成が必要。



## Ⅱ 確かな学力育成の必要性 (概念図)

本ページ  
のまとめ

(このページでは、「なぜ、今、学力向上に取り組むのか」その必要性和緊急性について、社会や経済の状況や、児童生徒の学力の状況等から総括的に示す。詳細な分析は次ページ以降)

- 昨今の変化の激しい社会経済の中、子供たちは、実社会で仕事上も日常生活上も応用力が求められる。(応用力を支える基礎的知識の習得、高い学習意欲も欠かせない。)
- 一方で、児童生徒の学力をみると、全般に応用力に課題があり、また、基礎的知識の習得が不十分な児童生徒も残念ながら存在し、また学習意欲に課題があるのが現状である。

### 【社会の変化と必要な能力】

仕事上及び日常生活上、実社会で、「応用力  
(思考力・判断力・表現力等)」がより重要に

\* 応用力を支える基礎的知識の習得、高い学習意欲も欠かせない。

⇒ [あわせて、これを受けて]  
学力概念の明確化と共通化  
(応用力重視)の進行

### 変化の激しい社会・経済

- インターネットによる情報流通量の飛躍的拡大  
⇒ 情報は持っているのが当たり前になり、それをどう活用し、分析するかが重要に
- 規制緩和の進行と消費者の選択肢の拡大  
⇒ 一人一人の、論理的な思考力、判断力がより重要に
- 国際競争の激化、IT技術等の科学技術の急速な発展  
⇒ 研究開発能力の向上、新しい技術や知識の習得が常に必要に

### 【子供たちの 学力の現状】

- ・ 応用力に課題
- ・ 基礎的知識の習得が十分でない児童生徒の存在
- ・ 学習意欲に課題





## Ⅱ 確かな学力育成の必要性 (社会の変化と必要な能力 ②)

本ページの  
まじめ

OECDは、今後、OECD諸国内でホワイトカラー的な定型業務が減少し、定型でない分析業務等が増加することが予想される中で、子供たちが「応用力」的な能力を育成することが重要と訴えている。  
我が国のものづくりの現場でも、特定の技術、技能だけでなく、生産工程の合理化、ニーズ把握に基づく製品化など、情報分析力、思考力等の応用力が、より求められる状況にある。

### 現在の社会に関する色々な分析の例

#### 【OECDの分析】

(下記は、OECDが平成19年12月に公表した「PISA 2006 Science Competencies for Tomorrow's World」の「科学の分野における、生徒の成績の測定に対するPISAの考え方」の項から、一部要約抜粋したもので)

- (データによれば)近年、アメリカの労働市場で最も減少したのは、肉体作業でなく、現在多くの中産階級の仕事であるやり方の定まった知的労働である。
- やり方の定まった業務は、コンピュータ化になじみやすい。また、業務内容を標準化したマニュアルを提示し仕事の手順を一度教えれば済むので、外国に移しやすい。
- コンピュータや低賃金の国に任せられるような仕事は、OECD諸国内から消え続けている。もし、子供たちが知識を覚え再現することのみを学習しているなら、消えつつある仕事に就くための準備をしているにすぎない危険がある。
- 一方で、(データによれば)情報を得て、それを説明し、行動に向けて説得するために他者とかわるような、複雑なコミュニケーションを要する仕事や、定型な解決方法のない問題の解決など、専門的な思考の需要が急激に増加している。
- そのため、今日の経済の中で生きていくためには、子供たちには、下記の能力をはぐむことが必要である。
  - ・ 公式の機械的な当てはめだけでは解決できない問題に対応する能力
  - ・ 複雑な科学的な知識を、明快に、分かりやすく他者に説明できる能力
- PISAは、単純な科学知識の再現を超えた出題をすることにより、これに対応している。(PISAに関しては、17, 67~70ページ参照)

\* アンヘル・グリアOECD事務総長によるPISA2006に関する講演(H19.12.4 東京で開催)

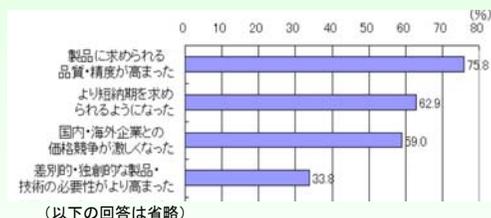
- ここ数十年、世界の人材プールの構図が激変し、国々は、自国の若者の教育的進歩を世界的観点から評価する必要がある。中国やインド等は、中程度のコストで、ますます速いペースで高度なスキルを供給し始めており、そのプレッシャーを他の国々は無視できない。
- (PISAの結果では)日本の生徒は、初めて出会う状況で、知識を応用することが困難である。もし生徒が単なる科学的知識の記憶とその再現だけを学習しているならば、彼らは将来の労働市場で必要なスキルを身に付けていないということだ。

#### 【ものづくりの現場において必要な能力の変化】

(下記は「平成19年度 ものづくり基盤技術の振興施策(経産省、厚労省、文科省)」及び「今後の雇用・能力開発機構の在り方について(参考資料)(雇用・能力開発機構の在り方検討会)H20.12」から要約抜粋(一部文章の改題あり)

- 技能系正社員(\*)に関して、 (\*製造現場で生産を担当する正社員)
  - ・ ものづくり産業の市場環境等の主な変化として、「製品に求められる品質・精度の高まり」や、「より短い納期を求められること」
- ↓
- ・ 技能系社員に求められる知識・技能として、「高度に卓越した熟練技能」などが減少する一方で、「生産工程を合理化する知識・技能」や「品質管理や検査・試験の知識・技能」などへのニーズの高まり  
(非正規労働者を活用するものづくり現場を対象としたヒアリング調査でも、「新しいユーザーニーズを掘り起こしていく能力」等を重視)
- すなわち、技能者にも「手技」としての技能のみならず、工程の改善・合理化、高付加価値化をもたらす、現場に根ざした提案力、実行力まで求める傾向。

【過去3年間における事業環境・市場環境の変化の状況認識(複数回答)】



【技能系正社員に求められる最も重要な知識・技能】





## II 確かな学力育成の必要性 (学力の概念の明確化・共通化 ②)

のま  
まの  
まの  
まの

前のページの学力概念の明確化・共通化の例として、PISAと全国学力・学習調査の概要と、PISAの問題例を示す。

### 【PISAについて】

#### ① 基本的事項

- 対象: 15歳児
- 実施状況: 3年のサイクルで実施(2000年(最初), 2003年, 2006年)
- 参加国(2006年): 57カ国・地域(OECD加盟国30カ国)

#### ② 調査の内容(2006年) (PISAの趣旨等の詳細は、参考資料P67参照)

- 読解力, 数学的リテラシー, 科学的リテラシーの3分野
- 義務教育終了段階の15歳児の持っている知識や技能を, 実生活の様々な場面で直面する課題の中で, どの程度活用できるかを評価(成人としての生活の中で必要な知識・技能という観点で評価)
- 思考プロセスの習得, 概念の理解, また, 様々な状況の中でそれらを活用する能力を重視

### 【全国学力・学習状況調査について】

(下記は、「平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント(国立教育政策研究所)より抜粋。  
「生活習慣や学習環境に関する質問調査」に関しては、参考資料のP64参照)

#### ① 基本的事項

- 対象: 小学校6年生, 中学校3年生
- 実施状況: 毎年実施(平成19年, 20年)

#### ② 調査(教科に関する調査)の内容

##### ○ 主として「知識」に関する問題(国語A, 算数・数学A)

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

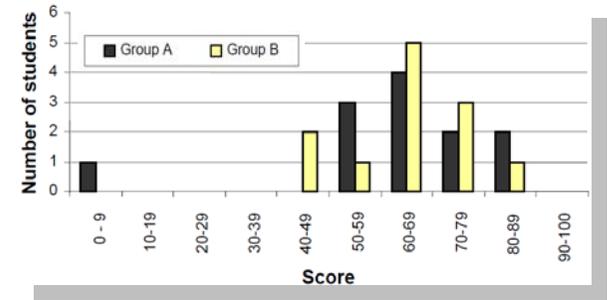
##### ○ 主として「活用」に関する問題(国語B, 算数・数学B)

- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容
- 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容 など

### PISAの問題例 (PISAのその他の問題例, 全国学力・学習状況調査の問題例は、参考資料P67~71参照)

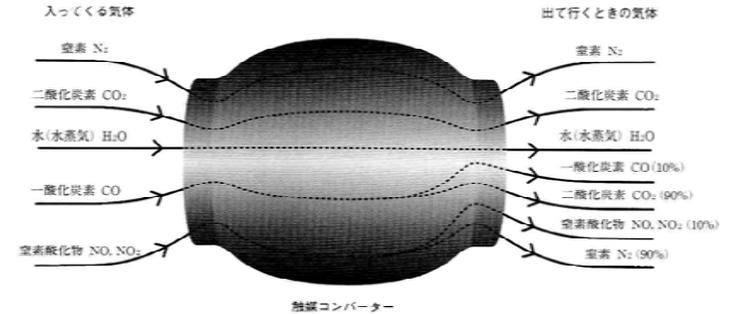
#### ◎ 数学的リテラシー (PISA調査の公開問題例 文部科学省(H17.1)より)

下のグラフは、二つの班AとBの理科のテストの結果を示しています。  
A班の平均点は、62.0、B班の平均点は64.5です。50点以上とった生徒は合格になります。先生は、このグラフを見て、今回のテストでは、B班のほうがA班より良かったと言いました。A班の生徒たちは先生の意見に納得できません。A班の生徒たちは、B班のほうが必ずしも良かったとは言えないということを先生に納得させようとしています。  
グラフを使い、A班の生徒が主張できる数学的な理由を一つ挙げてください。



#### ◎ 科学的リテラシー (「PISA 2006 調査 評価の枠組み」国立教育政策研究所・監訳 159~164ページ)

車の排気ガスが人間や環境に及ぼす害を少なくするための触媒コンバーター(キャタライザー)が、最近の車のほとんどに装着されています。有害な気体の約90%は、害の少ない気体へと変換されます。下の図は、気体がコンバーターに入り、どのように変わって出て行くかを示しています。



- 問1 上記に記されている情報をもとに、触媒コンバーターが、排気された有害なガスをより害の少ない気体へとどのように変換しているのか、例を一つあげてください。
- 問2 気体の変化は触媒コンバーターの中で起こります。原子と分子という2つの用語を使って、何が起きているかを説明してください。
- 問3 触媒コンバーターから排出される気体の図をよく見た上で、有害な排気ガスを減らすために触媒コンバーターの開発に関わっている科学者が解決に取り組むべきであると思われる課題を1つ述べてください。



### Ⅲ 本市の児童生徒の現状 (概念図)

ま  
と  
め  
本  
ペ  
ー  
ジ  
の

(前ページまでに示した学力概念の明確化と共通化の中での、本市の児童生徒の学力の現状である。)  
本市の児童生徒の学力の課題として、「基礎的知識の習得が十分でない子供への存在」、「応用力の課題」、「学習活動に消極的等」がある。

#### 【基礎的知識の習得状況の課題】

定着状況は概ね良好だが、習得が十分でない児童生徒も残念ながら存在。

- 基礎的知識の習得が十分でない児童生徒は、応用力の育成が困難となる。
- 基礎的な知識・技能(四則演算等)が定着していないことは、社会生活を送る上で大きな支障となるのではないかな。

#### 【応用力(思考力, 判断力, 表現力等)の課題】

全国学力・学習状況調査の問題Bについて、正答率が低いなどの課題。

(\*)日本の状況:

知識の活用等を問うPISAで、ここ数年、点数と国際的な順位が低下。

- PISAや問題Bが測定する力:知識, 技能等を, 実生活の様々な場面に活用する力が主

【実際の問題例は, 下記のように, より良い実生活を送る上で必要な力を測るもの】

- 情報の真偽を見極める力や, 情報を分析し自ら新しい情報を作り出す力  
←情報がネット等で氾濫する中で, 仕事, 私生活上の情報を分析する上で必要な力  
[例:P17のPISA上, P22の全国学力・学習状況調査]
- 与えられた文章の内容を読み取るだけでなく, 読み取った内容をもとに考える力や, より分かりやすい文章に作り変えたりする表現力 ←特に仕事の上で必要な力 [例:P69のPISA]
- 科学に関連する出来事に関し, 科学的情報を適切に評価, 判断する力  
←科学技術が日常生活に及ぼす影響が大きい現在, 不可欠な力 [例:P17のPISA下]
- 数学的知識を, 実際の生活の場面で活用する力 [例:P68のPISA左]

⇒ ○ これらの検査において課題があるということは, 子供たちが変化の激しい現在の社会で, より良い職業生活, 私生活を送る上で, 支障となる可能性があるとも言えるのではないかな。

#### 【学習意欲の課題】

- 勉強の意義の理解が不十分な子供も, 少なからず存在。
- 宿題など指示された課題はこなすが, 予習・復習, 自主的な学習には消極的な子供が多い。

(\*)日本の状況(2006年のPISA調査より):

日本の子供たちの学習内容への興味・関心は, OECD平均よりも低い。

- 勉強の意義が分からないことは, 目的意識がないため, 「学習意欲が高まらない」。⇒「学習習慣の未定着」⇒「基礎的な知識の欠如」となるのではないかな。
- 意欲的, 自主的な学習が特に必要な, 応用力の育成の妨げとなっているのではないかな。
- 社会に出た後も学び続けることが求められている現在, 学習内容への高い興味・関心, また, 主体的に学ぶ喜びを, 義務教育期間中に涵養することは, 極めて重要なのではないかな。

### Ⅲ 本市の児童生徒の現状 (基礎的知識の課題)

本ページの  
まとめ

(前ページまでに示した学力概念の明確化と共通化の中での、本市の児童生徒の学力の現状である。)  
本市の児童生徒は、基礎的知識の定着状況は概ね良好であるが、その習得が十分でない児童生徒も残念ながら存在する。

## 1 基礎的知識の習得状況に関する課題

### ① 仙台市標準学力検査から分かること

○ 平成20年4月に実施した仙台市標準学力検査の結果(左記)、基礎的知識の定着状況は、おおむね良好であることが判明。

・期待正答率と同程度及び上回る児童生徒の割合(概ね)

@ 小学校:70~85%

@ 中学校:65~80%

○ 一方で、基礎的知識を問う当検査において、期待正答率を下回る層に対しては、応用力(思考力, 判断力, 表現力等)育成のための学習に対応できるよう、基礎的知識の習得の徹底を図る必要がある。

### 期待正答率(\*)と同程度及び上回っている児童生徒の割合

小学校		全児童数に対する割合%		中学校		全生徒数に対する割合%	
		H20年度				H20年度	
国語	2年	83.5		国語	1年	78.3	
	3年	79.0			2年	72.5	
	4年	70.1			3年	73.8	
	5年	76.6		数学	1年	80.2	
	6年	78.1			2年	67.7	
算数	2年	95.2			3年	72.4	
	3年	87.9		社会	1年	65.7	
	4年	83.4			2年	65.3	
	5年	83.7			3年	66.0	
社会	6年	79.4		理科	1年	73.8	
	4年	83.1			2年	67.9	
	5年	87.3			3年	69.8	
理科	6年	74.0		英語	2年	74.1	
	4年	75.7			3年	67.6	
	5年	72.6					
	6年	76.4					

\*

「期待正答率」とは...

学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、個々の問題ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を想定したもので、標準学力検査の委託者が設定したものの。

### ② 全国学力・学習状況調査から分かること

○ 本市の児童生徒の、問題Aの正答率は全国よりも高く、基礎的知識の定着はおおむね良好。(次のページを参照)

○ 一方で、中学校3年の段階で、下記のような基礎的な知識が定着していない生徒も、残念ながら10~20%存在している状況。これらの基礎的な知識は、これから学習を進める上でも、また日常生活を送る上で不可欠と思われる。

【平成20年度全国学力・学習状況調査の中3数学Aより】

○  $5/7 - 2/3$ を計算しなさい。 [本市の生徒の正答率:87.5%]

○ ある日のA市の最低気温は7℃, B市の最低気温は-3℃でした。この日のA市の最低気温は, B市の最低気温より何℃高かったかを求めなさい。 [本市の生徒の正答率:80.1%]

### Ⅲ 本市の児童生徒の現状

(応用力の課題 ①)

のま  
とめ  
ページ

児童生徒の応用力に関しては、PISAや全国学力・学習状況調査等で明らかになったように、日本全体、そして本市でも課題がある。

## 2 応用力(思考力, 判断力, 表現力等)の課題

### ○ 世界の中での日本の状況

知識の活用や、資料を分析し論理的にまとめる能力を主に問う、PISA2006で、正答率が低い傾向にあり、ここ数年で、点数、順位ともに下げている。

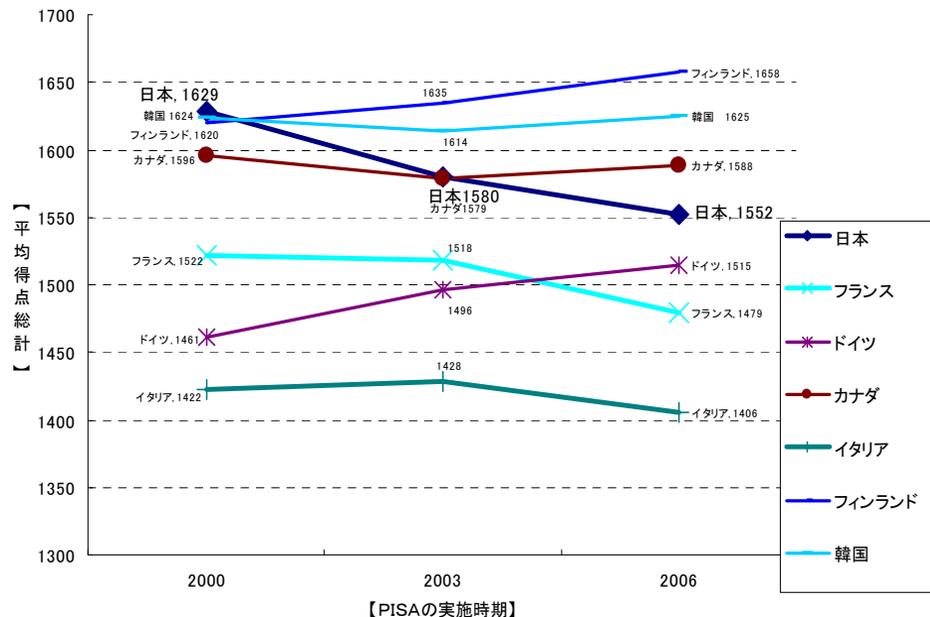
○ 日本のPISAの結果の動向

	2000年		2003年		2006年	
	平均点	順位	平均点	順位	平均点	順位
読解力	522	8位	498	14位	498	15位
数学的リテラシー	557	1位	534	6位	523	10位
科学的リテラシー	550	2位	548	2位	531	6位

各国(G7等)のPISA平均得点総計の推移

(一部データのないイギリス、アメリカを除く)

(\*)平均得点総計:OECDが公表している読解力, 数学的リテラシー, 科学的リテラシーの各平均得点の合計



### ○ 本市の状況

- ・ 全国学力・学習状況調査では、全国平均を上回っているものの、主に思考力等を問う問題Bは問題Aに比べ、大幅に正答率が低いなど、「応用力(思考力, 判断力, 表現力等)」については、全国と同様に課題がある。
- ・ さらに、問題Bの中でも、基礎的知識を問うような問題もあり、それらの正答率が高いが、思考力や表現力を主に問うような問題では、正答率が極めて低くなる。(詳細は次のP22参照)

H20 全国学力・学習状況調査における平均正答率(仙台市と全国との比較) (%)								
仙台市	小学6年生				中学3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
	68.2	53.5	73.4	53.6	76.5	66.1	66.7	54.0
全国	65.4	50.5	72.2	51.6	73.6	60.8	63.1	49.2

# Ⅲ 本市の児童生徒の現状

## (応用力の課題 ②)

のま  
まど  
まじ

前ページにおいて示した本市の児童生徒の応用力の課題は、応用力を問われる出題に対する低い正答率に、象徴的に現れている。

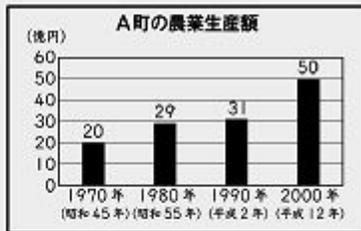
- 問2(1)のように、単純に、表からデータを読み取るという基礎的な技能を問う問題では、正答率はきわめて高い。
- しかし、問2(2)のように、公式の単純な当てはめ(百分率の計算)のやり方を問う問題であっても、文章やグラフから、必要なデータ、情報を読み取ることが求められると、正答率は低くなっている。
- さらに、問2(3)のように、表から読み取った各データを分析・比較し、その結果を論理的に式や言葉を使って解答することが求められる問題では、正答率は著しく低くなる。

小6算数B(平成20年度の全国学力・学習状況調査の「主として活用を問う調査」)より抜粋  
本市の正答率 (1)86.3% (2)61.5% (3):17.7%

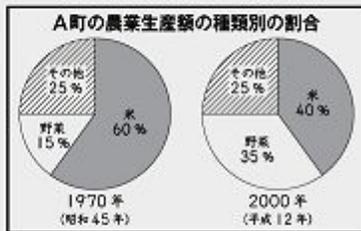
2

ひろしさんが住んでいるA町の農業生産額について、下の2種類の資料を使って調べます。

棒グラフは、農業生産額を1970年から10年ごとに表しています。

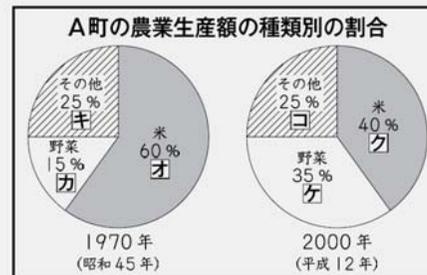
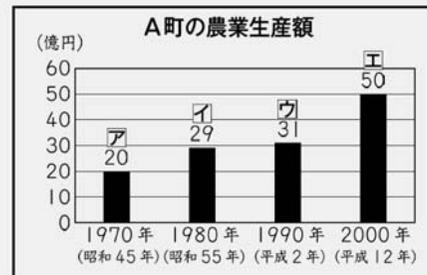


円グラフは、1970年と2000年の農業生産額の種類の割合を表しています。



2) 下のように、棒グラフと円グラフに表された生産額や割合に、アからコまでの記号を付けました。

A町の2000年の野菜の生産額を求めるためには、資料の中のアからコまでのうち、どれが必要ですか。アからコまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



(3) 次は、米について考えます。

A町の1970年と2000年の米の生産額について、ひろしさんは、次のように言いました。

米の割合が、60%から40%に減っているから、米の生産額は、減っています。



ひろし

ひろしさんの言っていることは、正しいですか。「正しい」か「正しくない」かのどちらかを○で囲みましょう。また、そのわけを、言葉や式を使って書きましょう。

(1) A町の1980年の農業生産額は何円ですか。答えを書きましょう。



# IV 本市の児童生徒の課題の分析

(概念図)

ま  
と  
め  
本  
ペ  
ー  
ジ  
の

(このページで、教育の現場や児童生徒の抱える諸問題の分析を、総括的に提示する。詳細な分析は、次ページ以降で行う。)

- 前ページまでに示した本市の児童生徒の学力の課題、すなわち、「基礎的知識の不徹底」と「応用力の問題」、「学習意欲の課題」という課題は、教育の現場や児童生徒の抱える、多岐にわたる諸問題に起因すると考えられる。
- そのため、対応にあたっては、教育体制全般にわたる検討が必要である。

◎分析：  
 (「基礎的知識」と「応用力」に共通)

【学校現場】

- ・ 授業に子供たちが集中できない状況の発生
- ・ 教員の教材研究等指導充実の時間の減少

課題：なぜ、「基礎的知識」が徹底されていないのか。

◎分析：

【教育の現場】  
 基礎的知識の習得が十分でない児童生徒に対応する時間などが不足

【児童生徒】  
 学習習慣の定着不足

課題：なぜ、「応用力  
 (思考力, 判断力, 表現力等)」に課題があるのか。

◎分析：

【教育の現場】  
 応用力育成 → きめ細かな指導, 幅広い学習体験が必要

 [一方で]

- ・ 学校： 人員, 教材, 研修等の教育体制が不十分
- ・ 地域： 幅広い体験活動の受け皿が地域によりばらつき

【児童生徒】  
 幅広い体験活動等の不足 等

課題：なぜ、「学習意欲」に課題があるのか。

◎分析：

【児童生徒】

- ・ 「なぜ学習するのか」目的意識の欠如
- ・ 社会やそれを支える人とのかかわりの希薄化

○ 子供たちが授業に集中し、また、教員が指導充実のための時間を確保し、

その上で…

○ 子供たちが主体的に学習に取り組む意欲を持ち

○ 基礎的知識の習得が十分でない子供に対し、その徹底を図るとともに

○ 応用力(思考力, 判断力, 表現力等)育成のための幅広い取組を学校, 家庭, 地域で実践できるよう,

⇒ 教育体制全般にわたる検討が必要

# IV 本市の児童生徒の課題の分析

(学校等へのヒアリング調査等について)

本ページの  
のまとめ

市教委は、児童生徒の学力、生活状況等を詳細に把握するため、学校現場等からヒアリングを行った。次ページ以降の詳細な課題分析は、このヒアリングも参考にしつつ行ったものである。

## 1 ヒアリング等の趣旨と経緯

\* 当プランにおける、本市の児童生徒の課題分析や具体的な事業の立案は、これらのヒアリング結果等も参考にしつつ行った。

### 【平成20年5～8月のヒアリング】

- 下記を目的に、教職員、保護者の方々を対象にヒアリングを実施。
  - ・ 学力向上策の検討の基礎的情報となる「児童生徒の学力、体力、生活状況、学校現場の現況」を正確に把握するため。

ヒアリング結果等をもとに、今後の学力向上策の検討の方向性を、「学力向上策(素案)」として取りまとめ。

### 【平成20年10～11月のヒアリングとパブリックコメント】

- 下記を目的に、教職員、保護者等に対し、「学力向上策(素案)」をたたき台として、再度、ヒアリングを実施。
  - ・ 学力向上に関する具体的な事業の立案にあたり、それらが教育の現場で使いやすい実効性のあるものとするため。
- さらに、「学力向上策(素案)」に関するパブリックコメントを実施。
- この他、教育委員会で職場体験を行った、中学2年生8校22名からも、意見を聴取した。

## 2 ヒアリングの実施状況

(結果の概要については、次のページ参照)

- 実施時期 : 平成20年5～11月 (及び平成19年6～7月)
- 実施回数 : 27回 約320名

[内訳] @ 平成20年:小中学校20校の教職員(教員, 技師, 学校事務職員等), 保護者3回

@ 平成19年:小中学校4校の教職員(教員), 教育センター

※以下のページの「現場の教職員の意見」とは、これらのヒアリングにおいて聴取された具体的な意見である。

\* 各発言の発言者の表示に関する凡例

- ・ 小, 中学校の校長と教頭 : それぞれ[小・管理職], [中・管理職]
- ・ 小, 中学校の栄養教諭, 養護教諭 : それぞれ[小・栄養教諭], [中・栄養教諭], [小・養護教諭], [中・養護教諭]
- ・ 小, 中学校の, 校長, 教頭, 栄養教諭, 養護教諭以外の教諭 : それぞれ[小・一般教諭], [中・一般教諭]
- ・ 小, 中学校の学校事務職員 : それぞれ[小・事務職員], [中・事務職員]
- ・ 小, 中学校の技師 : それぞれ[小・技師], [中・技師]
- ・ 保護者 : [保護者]

なお, [校長意見]とあるのは, 10～11月にかけて, 市立学校長から「学力向上策(素案)」についての意見募集を行った際に寄せられた, 市立学校長の意見である。

[パブコメ]とあるのは, パブリックコメントにおいて寄せられた意見である。

## IV 本市の児童生徒の課題の分析

(学校等へのヒアリング調査について 続き)

### 【5～8月に実施したヒアリング結果の概要】

#### (1) 子供と保護者の変化

- ほとんどすべての教職員が、近年の子供と保護者の変化を訴えている。
  - ・ 子供では、以前は家庭教育の領分であった生活習慣が定着しないまま入学してくること、また、コミュニケーション能力の低下などである。
  - ・ 保護者に関しては、過保護な保護者と無関心な保護者の二極化、また、学校へ過大な要求をする保護者の増加などである。

#### (2) 教職員の負担の増加

- これらへ対応するための児童生徒への指導や、教科指導以外の学校事務の増加等のため、教職員の負担が増えている。
- また、配慮の必要な子供が増加しており、授業中、子供たちが集中できない状況が発生していると、多くの教職員が訴えている。
- これらに対応するため、現場の人員の充実を求める意見が多い。
- 一方で、保護者は、学校現場での教員同士の高め合いや児童生徒、地域との教員のコミュニケーション力の充実が必要であると考えている。

#### (3) 学校現場での学力向上の取組とその限界

- 各学校では、各学校の状況に即した独自の学力向上策を講じている。それらは「児童生徒間の学力差が広がる中での、一人一人の児童生徒に即したきめ細かな対応」という点で共通点が見られる。少人数指導や教科担任制の導入は、その顕著な例であるが、教員数の制約等から、対象となる学年、科目が限られていることが多い。
- 児童生徒間の学力差の拡大の中、基礎的知識の習得が不十分な子供たちへの指導の充実が優先という意見が多い。応用力(思考力、判断力、表現力等)の必要性は分かるが学校で対応する時間がないとの意見もある。
- また、思考力や判断力の向上のためには、幅広い体験が重要であり、地域、保護者による取組が重要との意識が、保護者、学校にある。

### 【10～11月に実施したヒアリング結果の概要】

#### (1) 学校の教育環境について

- 現在の学校現場の課題と、その対応の方向に関する意見として、特に多かったのは下記のようなものである。
  - ・ いわゆる「学力の二極化」(子供たち間の学力差の拡大) → [対応の方向]少人数指導や個別指導などきめ細かな指導のための人員確保
  - ・ 配慮の必要な子供の増加 → [対応の方向] 補助員等の増加
  - ・ 教員の学校業務増加による、教材研究、子供と触れ合う時間の減少 [対応の方向]教員の業務軽減
- 保護者からは、先生に「あたりはずれ」があると叫べないようなしてほしいという意見があった。

#### (2) 家庭・地域の教育環境について

- 家庭学習に関して、保護者の協力が得られないことがあると、多くの教職員が感じている。
- 教職員、保護者とも、学校に地域の方々がかかわることが重要との認識が強い。

## IV 本市の児童生徒の課題の分析

(パブリックコメント及び生徒の意見の概要)

### 【11～12月に実施したパブリックコメントの概要】

#### 1 学力向上策全体について

##### (1) 学力の概念等について

- 人間行動や能力をコントロールする脳を育てることを基本に学力向上策を考えるべき。
- 各種学力検査に対応できる「学力向上策」をねらいとしているのではないか。学力検査の数値だけを追うことにならないか懸念がある。

##### (2) 学力向上の必要性や緊急性について

- 学力向上に緊急を要することは言うまでもなく、学力向上策をとりまとめることに賛成。公平な教育提供に結び付く。
- 本市の児童生徒の学力(特に応用力)は優秀であり、「向上策」の現状認識に誤りがある。

##### (3) 児童生徒の課題について

- 読書活動により、基礎的知識を活用し課題に対応する能力に上げたい。学校図書館が、学校教育全体の中で活用されていない。

##### (4) 学力向上する上で課題となっていることについて

- 基礎的知識に課題のある子供に時間をかけてじっくり指導する必要があるが、個別に指導するための時間がない。
- 応用力の育成を目指しても、対応する人員や時間が足りない。

#### 2 学力向上策のための諸施策について

##### (1) 「(A)教育指導手法の充実」について

- 個々の教師が、毎日の授業で本気になって勝負する学校づくりが学力向上につながる。
- 応用力育成のため、指導方法・学習教材の整備や交流が不可欠。

##### (2) 「(B)指導体制の充実」について

- 限られた教育予算を人的条件整備に集中させるべきである。
- きめ細かい指導のため、1クラスの児童数を減らし、少人数で指導すべきである。

##### (3) 「(C) 前提となる環境の整備」について

- お互いのよさを認め合うような集団づくり、学級経営が必要である。
- 教員の多忙化解消のため、文書や報告を精選して減らすべき。

##### (4) 「(D)家庭や地域の教育環境の充実」について

- 保護者や地域の方々の支援について検討することが必要である。
- 土曜日に学習することを復活させてほしい。

##### (5) 「(E)児童生徒の学力・学習状況の的確な把握」について

- 応用力を問う学力検査の実施は、長期的な視点で応用力を育成することにつながる。

### 【10～11月に実施した中学生への聞き取りの概要】

#### (1) 分かりやすく楽しいと感じる授業

- 授業の中で「自分で考える時間」、「考えを表現する時間」、「友達の考えを知り、自分の考えを深めていく時間」があるとよい。
- 社会の動きや生活と結び付いていると、「なぜ」という考えがわき、学ぶ意欲が出てくる。調べ学習や体験活動、実験などの授業が楽しい。
- いろいろ試行錯誤する中で、何が基礎基本で、何が応用かが分かってくる。体験したりや自分なりに解いたりするゆとりがほしい。

#### (2) 少人数指導、教科担任制等

- 質問したり、意見を述べるような場面では少人数が良い。国語や社会など、友達のいろいろな考えを知る場面では、一斉授業が有効。
- 自分なりに頑張っているが、分からないことを質問したり、もう一度勉強したりする場があると良い。
- 小学校の高学年では教科担任制を行ったり、中学校と交流したりして、小中のギャップを減らす努力が必要。

#### (3) 自分から勉強するために

- 何のために学ぶのか、勉強の仕方、探究の仕方などを教えてほしい。
- 大人としての生き方を見せてほしい。小学生の時、お年寄りや地域の方と一緒に活動したことや聞いた話は今も覚えている。

**IV 本市の児童生徒の課題の分析**  
 (「基礎的知識」と「応用力」の課題に共通する課題・学習意欲の課題①)

のま  
 本ペ  
 じ  
 とめ

- 「基礎的知識」「応用力」の両方に共通する課題として、子供たちが集中できていない授業、教員の指導充実のための時間の減少等が挙げられる。
- 学習意欲の課題として、社会とのかかわりの希薄化等が挙げられる。

**「基礎的知識」と「応用力」の課題に共通する課題**

- ① 子供たちが授業に集中できない状況の発生
- 個別の配慮が必要な児童生徒や授業中じっとしていない児童生徒の増加
  - 特に小学1年生で、基本的な学習態度が欠如している(席に座ってられないなど)児童や、集団での生活に慣れていない児童の増加
- ⇒ 授業に落ち着きがなくなり、子供たちの集中が欠如する状況が発生

- ② 教員の指導充実のための時間の減少
- 家庭の教育力低下に伴い、生活指導や生徒指導に要する時間の増加
  - 一部の理不尽な要求をする保護者へ対応する時間の増加
  - 教科指導以外の事務(各種校務分掌、部会等の準備、会計、渉外など学校外の方との調整業務等)の増加
- ⇒ 教員の教材研究や、子供一人一人に接する時間の減少

**学習意欲の課題**

- 日常生活の利便性の向上、少子化による大学全入時代の到来
  - 社会やそれを支える人とのかかわりの希薄化
- ⇒ 学習意欲の低下
- ・ ほとんどの児童生徒は、勉強の意義を理解しつつも、自主的な学習活動には消極的
  - ・ 一部の児童生徒は、勉強の意義を実感できない。「なぜ学習するのか」という目的意識の欠如。

# IV 本市の児童生徒の課題の分析 (「基礎的知識」と「応用力」の課題に共通する課題・学習意欲の課題②)

ま  
と  
め  
本  
ペ  
ー  
ジ  
の

- (前ページの状況を具体的に表す。現場の教職員の意見やデータである。)
- 現場の教職員は、配慮を要する児童生徒の増加(特に小1)、教員の多忙化等を訴えている。
  - 各種データを見ても、発生率は低いものの、学校での問題行動は増加している。
  - 職場体験を経て実社会とかかわりを持ち、初めて学力の必要性を認識する子供が多い状況である。

## [現場の教職員の意見]

### 【配慮を要する児童生徒の増加】

- 発達障害など、個別の配慮が必要な子供は増えている。[小学校・一般教諭]
- 特に、1年生の児童に配慮を要する子供が多い。立ち歩く子供、落ち着きのない子供など、周囲の子供へ影響を与えてしまう。 [小学校・一般教諭]
- 配慮の必要な児童に、個別に対応(取り出し授業など)することにより、これらの児童の教科内容の理解が進んだ。[小学校・一般教諭]
- 担任のほかに、もう一人教師がいれば、個別の配慮を要する児童がいて、その児童が教室から飛び出しても、担任は授業を中断する必要がない。他の児童も、落ち着いて授業に臨める。[小学校・一般教諭]

### 【教員の指導充実のため時間の不足】

- 子供、保護者、社会の変化などにより、すべてにわたり、対応にきめ細かさが求められるようになってきているので、以前より、(対応のため)時間が多くかかる。[小学校・一般教諭]
- 部活や生徒指導に忙しく、休みを取れないで体調を崩している。職員の健康管理も心配。[中学校・養護教諭]
- そんなことまで保護者は学校に要求するのかもしれない。10年前よりも教師が忙しくなっている。[小学校・技師]

### 【学習意欲の課題】

- 以前に比べて生徒の学ぶ意識が下がっている。理科好きで興味・関心が高いような生徒が減ってきている。[中学校・一般教諭]
- 生活が便利になってきているので、工夫して遊ぶ経験が少ないことが学習面の問題にもつながってきている。[小学校・一般教諭]

## [各種データ等]

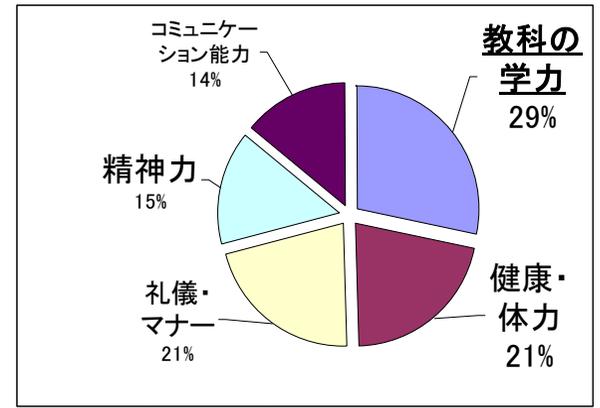
### ○ 問題行動の増加

(下記のデータ(全国のもの)は、「低年齢少年の生活と意識に関する調査(H19)」[内閣府]より)

- ・「授業中勝手に席を離れる」 ‘よくある’ + ‘ときどきある’(児童生徒による回答、以下同じ)  
 H11:小学4～6年生で3.2%, 中学1～3年生で4.9% ⇒ H18:それぞれ4.9%, 5.6%
- ・「先生へ口答え、逆らい」  
 H11:小学4～6年生で4.3%, 中学1～3年生で7.8% ⇒ H18:それぞれ8.2%, 15.6%
- ・「ずる休み」  
 H11:小学4～6年生で1.2%, 中学1～3年生で2.8% ⇒ H18:それぞれ2.7%, 4.5%
- ・「授業中の居眠り」  
 H11:小学4～6年生で2.6%, 中学1～3年生で19.3% ⇒ H18でそれぞれ4.5%, 25.3%

### ○ 職場体験後の子供たちの意識の変化

Q 職場体験を終えて、最も身に付けたいと感じた力は何ですか。  
 (H20年度 中間まとめ, 中学2年生 6274名)



→ このように、職場体験を経て実社会とかかわりを持ち、あらためて学力の必要性を認識する子供が多い状況である。

## IV 本市の児童生徒の課題の分析

(なぜ基礎的知識が徹底されないのか)

の  
ま  
し  
め  
本  
ペ  
ー  
ジ

- 基礎的知識の定着にはきめ細かい指導が必要だが、学校現場での人員不足や時間等の問題がある。
- さらには、児童生徒の学習習慣の定着不足の問題もある。

### 〈基礎的知識の習得が十分でない子供に、その徹底を図る上で必要な要素〉

#### 【学校現場】

一人一人、どこの単元でつまづいているのか、さかのぼって明確にした上で、きめ細かく指導

#### 【児童生徒】

基礎的知識の定着のための、毎日の着実な家庭学習

理念と、それを実現  
する体制の乖離

- 本市の、習熟の遅いグループに対する個別指導等の実施状況等  
(35ページ参照)

#### 【学校現場の状況】

基礎(読み、書き、計算)の習得方法は充実し、その定着状況は良好であるものの…

- 学力差が拡大する中、基礎的知識の習得が十分でない子供も残念ながら存在。  
一方で、それらの児童生徒に、きめ細かく(時には個別に)対応するために必要な人員、授業時数が不足。

#### 【児童生徒の状況】

- 大人のライフスタイルの夜型化等に伴う生活習慣の乱れ
  - テレビやゲームの時間の増加等による子供の日常生活の変化
- 学習習慣の定着不足

## IV 本市の児童生徒の課題の分析

(なぜ、「応用力」に課題があるのか ①)

本ページの  
まとめ

学習指導要領上、応用力(思考力、判断力、表現力等)の重要性が打ち出されてから十数年経過した現在、十分な成果が上がっていない。理由としては、応用力育成には、基礎的知識の定着以上に、きめ細かな指導、高い学習意欲、幅広い学習体験が必要だが、学校現場での人員、教材、研修が不十分、児童生徒の地域での幅広い体験の不足等の課題があるからではないかと考えられる。

平成4～6年から施行された学習指導要領は、表現力、論理的思考力等を重視する「新学力観」を打ち出した。

しかし

【十数年経過後】

PISA, 全国学力学習調査  
問題B等で結果が思わしくない。

原因の分析

(次のページ)

# IV 本市の児童生徒の課題の分析

(なぜ、「応用力」に課題があるのか ②)

## <応用力をはぐくむための理想的な姿>

- ◎ 個々の子供に応じたよりきめ細かな指導  
(個々の児童生徒の思考過程の把握と指導, 論述内容の添削指導等)
- ◎ 粘り強く学ぼうとする姿勢や学習内容への高い興味・関心  
(複雑な未知の問題に対応する上で不可欠)
- ◎ 余裕のある学習時間と幅広い体験活動  
(応用力(思考力・判断力・表現力等)育成には, 時間の余裕と, 多様な考えをもつ人々との触れ合い, 机の上だけにとどまらない幅広い体験活動, 読書活動 が不可欠)

### 【基礎的知識の獲得手法】

- 一般的に, 「知識の暗記」や「反復練習」などのスキルのな学習活動が中心。(\*)  
⇒ 基本的には, 一斉指導的な指導が可能。

(\*) もちろん, 応用力と同様, 単純な暗記だけでなく, きめ細かな指導が必要な意味を考えさせる学習活動や, 学習意欲は不可欠。あくまで, 比較の上で, 応用力育成は, 基礎的知識の獲得よりも, これらの要素が一層求められるということ。



【応用力育成に関連する授業の実施状況等】

35ページを参照

## <現状>

### 【教育現場の状況】

応用力(思考力・判断力・表現力等)の必要性を認識し, 様々な工夫はしつつも...

- 応用力育成に必要な下記の要素が不十分

#### [学校の現場]

- ・きめ細かな指導をするための人員や授業時数
- ・応用力育成に資する教材や指導手法の研修
- ・応用力育成の必要性に関する意識  
(←教員間で差がある)
- ・思考力育成と結び付くような読書指導

#### [地域]

- ・幅広い体験活動の受け皿機能  
(←地域間で差がある)

### 【児童生徒の状況】

- ・幅広い体験活動の不足, 家族や教員以外の大人とのかかわりの減少
- ・学習内容への興味・関心の課題
- ・思考力向上に結び付く読書活動の少なさ

## IV 本市の児童生徒の課題の分析 （「基礎的知識」と「応用力」の各々に関連する、 現場の教職員の意見）

の  
ま  
と  
め  
本  
ペ  
ー  
ジ

現場の教職員は、基礎の徹底のための時間不足、子供たちの思考力等の低下等を訴えている。

### [現場の教職員の意見]

#### ① 基礎的知識関連

##### (1) 児童生徒の基礎的知識の状況

- 1年に入ってきた時点で児童ができることに大きな差がある。  
[小学校・一般教諭]  
(同趣旨の発言は、中学・一般教諭からもあった。)
- 基礎から応用(までの育成が必要)という説明があったが、本校の生徒は基礎が身に付いていない。時間をかけても定着が難しい生徒、また、じっとしていない生徒への対応をどうすべきなのか、頭を悩ませている。[中学校・一般教諭]

##### (2) 基礎的知識に課題のある原因・その対応等

- 高学年になると個人差が大きくなる。基礎学力がついていない児童の学力をどうやって向上させるか。個人指導を行うにしても時間が足りない。[小学校・一般教諭]
- 基礎学力の低い生徒には一人一人への個別対応が必要。  
[中学校・一般教諭]
- 国語の力が不足していると感じている。漢字などもなかなか定着しない。読み取る力を付けさせたいと思うが、なかなか身に付かない。そのせいで、文章題が解けない児童も多い。放課後に個別に指導するようにしている。[小学校・一般教諭]

#### ② 応用力(思考力・判断力・表現力等)関連

##### (1) 児童生徒の応用力の状況

- 近年の傾向として、作文力、他者理解(他人とのコミュニケーション能力)に欠ける児童が多い。暗記、計算分野での能力は、昔と変わらない。[小学校・一般教諭]
- 児童の計算能力に衰えは感じない。一方で、思考力、論理展開力が落ちている。  
[小学校・管理職]

##### (2) 応用力に課題のある原因

- 算数教育は習得型(ドリル学習など)と探求型(規則性発見、議論)に分かれるが、探求型の授業が足りず、習得型の授業に時間を取られている。この原因は、授業時数の少なさ、授業研究等の不足である。[小学校・管理職]
- 子供たちに考える力を身に付けさせたいと思い、指導している先生は多いが、現実には、そこまで行かず、基礎的知識の習得が十分でない子への対応に追われている。[小・一般教諭]
- 学校の現場で「子供たちが考える授業」ができていないのは、先生たちの意識が低いことも理由の一つである。[小・一般教諭]

##### (3) 応用力向上に向けた手法等

- 思考力、表現力、コミュニケーション力の向上のためには、(町探検などを通じた)地域の人とのつながり、学校行事が重要。[小学校・一般教諭]
- 最終的目標として、生徒に応用力をつけるまで指導したいという点では同感だが、その目的と理由を教員に納得させないとうまく浸透しないと思う。[中学校・一般教諭]
- 基礎は十分だが、応用力は充実させる余地がある。応用力の不足の理由として、家庭で子供と親が話す機会が少ないなど、家庭での生活にも改善の余地があるのでは。[小・一般教諭]

# IV 本市の児童生徒の課題の分析 （「基礎的知識」と「応用力」の各々に関連する 各種データ）

ま  
と  
め  
本  
ペ  
ー  
ジ  
の

○ 各種データを見ても、本市で、基礎に欠ける児童生徒への個別指導や応用力育成に資する授業の実施状況が低い(科目、学年にもよるが)こと、また、自然体験の減少、学習習慣の未定着な児童生徒の存在等が分かる。

## 【各種データ】

(下記は、特段の明記がない限り、「H20年度 全国学力・学習状況調査」から抜粋した本市のデータ)

### 【基礎的知識の関連】

- 基礎的知識の徹底に関連する授業の実施状況の例
  - ・ 習熟の遅いグループに対する少人数指導
    - @ 国語 実施していない 小6：83.7% 中3：90.5%
    - @ 算数・数学 " 小6：43.7% 中3：44.4%
  - ・ 補充的な学習の指導
    - @ 国語 あまり行っていない+全く行っていない 小6：32.5% 中3：20.7%
    - @ 算数・数学 " 小6：9.7% 中3：11.1%
- 授業時間以外の勉強時間(月～金)
  - @ 30分より少ない 小6：14.7% 中3：9.6%
  - @ 全くしない 小6：3.3% 中3：7.3%
- 生活習慣の状況:この7年で、寝る時刻は遅くなる傾向  
(下記のデータ(全国のもの)は、「低年齢少年の生活と意識に関する調査(H19)」[内閣府]より)
  - ・ 翌日学校があるときに寝る時刻(11時以降) (全国)
    - 9～14歳 H11：42.6%→ H18：46.7% (12時以降) 同12.4% → 16%

### 【応用力(思考力・判断力・表現力等)の関連】

- 応用力育成に関連する授業の実施状況の例
  - ・ 算数・数学で、実生活の事象と関連を図る授業の実施状況:
    - @ 小6 あまり行っていない+全く行っていない 34.1%
    - @ 中3 " 36.5%
  - (参考)基礎的知識の定着の授業の実施状況:
    - @小6 計算問題等の反復練習 あまり行っていない+全く行っていない 0%
    - @小6 漢字・語句などの定着 " 0.8%
  - ・ 発展的な学習の指導の実施状況:
    - @ 国語 あまり行っていない+全く行っていない 小6：64.2% 中3：36.5%
    - @ 算数・数学 " 小6：34.9% 中3：38.1%
- 児童生徒の意識
  - ・ 「算数・数学の時間で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」
    - @ どちらかといえば当てはまらない+当てはまらない 小6：32.0% 中3：61.6%
- 応用力に関する他地域との比較 (次のページ参照)
- 本市の児童生徒の読書活動に関する分析 (35ページ参照)

### 【基礎的知識・応用力に共通】

- 机の上だけでない幅広い体験活動の状況 (下記は自然体験の例)  
(国立オリンピック記念青少年総合センターの「平成17年度青少年の自然体験活動等に関する実態報告 (小4,6, 中2対象, 全国データ) )
- ・ 「蝶やトンボ、バッタ等の昆虫を捕まえたこと」  
ほとんどない：H10は19%⇒H17は35%
- ・ 「野鳥を見たり鳴き声を聞いたこと」  
ほとんどない：H10は25%⇒H17は34%
- ・ 「キャンプをしたこと」  
ほとんどない：H10は38%⇒H17は53%

### 【H20全国学力・学習状況調査における平均正答率の比較(小6・全国)】

- 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
  - @ 当てはまる(全児童の29.6%)
    - 国語A：66.8% 国語B：51.8% 算数A：73.3% 算数B：52.3%
  - @ 当てはまらない(全児童の17.5%)
    - 国語A：59.7% 国語B：43.4% 算数A：67.4% 算数B：46.1%
- 動物を飼育したり、花や野菜を育てたりしたことがありますか。
  - @ 何度もあった(全児童の51.0%)
    - 国語A：66.4% 国語B：51.8% 算数A：72.5% 算数B：52.1%
  - @ 全くなかった(全児童の6.8%)
    - 国語A：59.4% 国語B：41.9% 算数A：67.8% 算数B：45.8%

# IV 本市の児童生徒の課題の分析

(応用力に関する他地域との比較)

のま  
まページ  
とめ

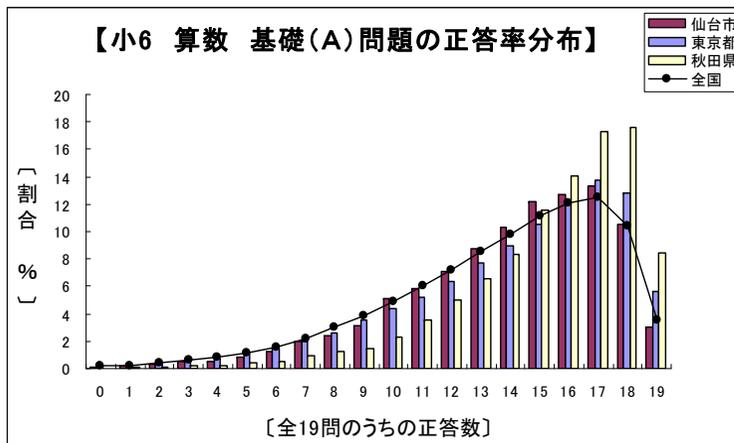
他地域との比較を見れば、本市の子供たちは、公教育や地域の学習機会の充実により、今以上に骨太の応用力を伸ばすことができるのではないか。

## 【グラフからみた本市の特徴】

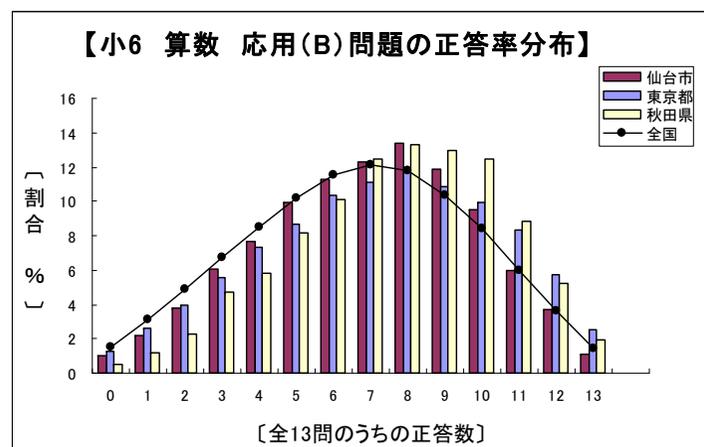
(データはH20全国学力・学習状況調査より)

- 問題A, Bともに正答率が中位の層が厚く、高い層と低い層の割合が少ない。
- 特に、問題Bに関して、下記のような特徴。
  - ・ 正答率が高い層の割合が、秋田県、東京都と比較して少ない。
  - ・ 秋田県と比較して、正答率の低い層の割合が高い。

【小6 算数 基礎(A)問題の正答率分布】



【小6 算数 応用(B)問題の正答率分布】



- 中学受験率が高く、学習塾等で応用問題に接する機会の多い東京都で、問題Bの正答率の高い層の割合が高いのは自然。

(\*)私立中学進学率 東京都区部 21.1% 文京区と千代田区は約40% (H20.4.5 週刊ダイヤモンド記事より)

- 一方で、特に中学受験率が高くない仙台市と同様の状況にある秋田県では、問題Aのみならず、応用力を問う問題Bも、正答率が高い層の割合は東京都に比べ遜色がない。かつ、正答率の低い層の割合が少ない。これは、少人数による学校でのきめ細かな指導・教育委員会による学校への強力な介入(学力向上推進チーム派遣)や、地域の教育環境の充実によるものと考えられる。

→ 本市の子供たちも、学校教育と地域の教育環境の充実により、今以上に応用力の伸びる可能性が、極めて大きいのではないか。

- 公教育での、応用的な学習の充実。(入試問題への対応に特化したものでなく、幅広い応用力育成のための学習)
- 地域コミュニティの活力を生かし、地域で実際に知識を活用し学習する場を充実

→この2つの組み合わせにより、ともすればテクニック重視になりがちな入試対応の学習よりも、骨太の応用力を身に付けることができるのではないか。

本市の対応  
の方向



前ページまでで分析した諸課題に対応し、「応用力の育成」と「基礎的知識の習得が十分でない子供へ、その徹底」、「学習意欲の向上」を実現するためには、  
「学力向上の前提条件の整備」 ⇒「きめ細かい指導を可能とする指導体制の整備」  
⇒「授業や指導の充実のための施策」及び「児童生徒の興味・関心の向上や学習習慣の定着のための施策」と、体系的に施策を実施する必要がある。

# V 本市の確かな学力育成施策の検討の方向性(全体構成図1:諸課題と対応する施策の関連)

## 確かな学力の育成

### 応用力育成の実現

### 学習意欲の向上

### 「習得が十分でない子供への基礎的知識の徹底」の実現

#### 応用力育成のための授業・指導の充実

#### 幅広い体験学習の充実、児童生徒の興味・関心の向上

#### 学習習慣の定着

#### 基礎的知識徹底のための授業・指導の充実

応用力育成のための指導手法や研修の不足に対応した施策の実施  
● 応用力をはぐくむための授業力向上に関する研究、「思考力育成カリキュラム」等の開発  
● 教員向けの土曜講座の新設 等

体験学習の減少、学習内容への興味の課題に対応した施策の実施  
● 企業や大学との連携  
仙台自分づくり教育の全中学校での実施、サイエンス講演会の拡充 等  
● 地域での幅広い体験学習の充実  
学校支援地域本部や放課後子供教室の拡充等

学習習慣の定着不足に対応した施策の実施  
● 家庭学習推進事業  
● 生徒学習室の新設

一層の指導手法の向上の必要性に対応した施策の実施  
● 教員向けの土曜講座の新設  
● 学力を中心課題とする学校へ市教委が個別支援 等

応用力育成は、「学習内容への高い興味・関心<sup>(\*)</sup>と「幅広い体験活動<sup>(\*\*)</sup>」が、一層必要。  
<sup>(\*)</sup> 複雑な未知の問題に対応する上で不可欠  
<sup>(\*\*)</sup> 思考力・表現力育成には机の上だけでない幅広い体験活動等が不可欠

「指導体制」の整備(+α)  
特別支援教育指導補助プランの拡充、小1の生活・学習サポーター(対象児童への学習面での個別支援が可能に)

### 応用力と基礎的知識の課題に対応した、きめ細かな授業・指導を可能とする指導体制(「十分な人員」と「質の高い教員集団」)の確立

きめ細かな指導、より専門的な指導のために必要な人員の不足に対応した施策の実施  
● 中1数学の少人数指導(30人以下)の実施、5年経験者研修の新設等

### 確かな学力を育成する上での「前提条件<sup>(\*)</sup>」の整備

<sup>(\*)</sup> 「落ち着いた授業」の中で、「児童生徒に対し、教員が工夫をこらした指導」

授業中じっとしていない配慮の必要な児童の増加や、教員の教科指導充実のための時間の減少に対応した施策の実施  
● 特別支援教育指導補助プランの拡充、指導困難学級対策の拡充、小1のための生活・学習サポーターの新設等  
● 学校事務の共同実施と事務補助員の配置

学力・学習状況の的確な把握  
○ 標準学力検査に応用力を測る問いを追加  
↓ 応用力育成と、基礎的知識の徹底を目指した教育体制がうまく機能しているかを分析し、フィードバック



# V 本市の確かな学力育成施策の検討の方向性

(学校現場、保護者の意見)

まとめ  
本ページの

- 現場の教職員から、学校現場での「研修」、「少人数指導」、「指導補助員」の充実、また、「家庭での学習習慣の定着」や地域と学校の連携が大切という声が寄せられた。
- また、保護者から、教員に「当たり外れ」がないようにしてほしいという声が寄せられた。

## [現場の教職員・保護者等の意見]

### (A) 教育指導手法の充実

- 全国学力・学習状況調査の問題Bの問題を、教員全員で解いてみた結果、これから指導方法を変えなければという実感が湧いた。[小学校・管理職]
- 「総合的な学習の時間」については、先生たちがカリキュラムを作ることに困難を来している。[小学校・一般教諭]
- 学力を向上させるため、教員の力量を上げることが大切。若い先生は研修が必要。[中学校・管理職]
- PISA型の読解力について、研修自体も少なかったし、また、受けることも時間的な制約等により難しかったので、今後、研修会を充実させるとともに、研修会に出られるような工夫をお願いしたい。[中学校・一般教諭]
- 授業(の手法)や教材を決して現場に押し付けないようにと思う。[パブコメ]

### (B) 指導体制の充実

- 当校で算数の低学力層が少ないのは、算数の少人数の成果である。ぜひ続けて人員を配置してほしい。[小学校・管理職]
- 現在、少人数指導は、教員の数の制約のため、週1回しかできない。できれば、週3時間すべてで、必要に応じて、少人数指導を実施したい。[中学校・一般教諭]
- (教科担任制で)複数回授業することで授業内容も充実することを感じる。高学年でも魅力ある授業を行うことは、中学校への橋渡しにもなる。[小学校・一般教諭]
- 小中連携のモデル校を指定し、モデルを示してほしい。[中・一般教諭]
- 先生方に当たり外れがあるなどと言われないようにしてほしい。[保護者]

### (C) 学力向上を図る上で前提となる環境の整備

- 対応が難しい子が多い。1人の個別指導補助員が、二つの学級をみている(そのため、一つの学級を丸一日みられない)が、1日、一つの学級についてほしい。[小学校・一般教諭]
- 学校事務のモデル校で事務の効率化が図られれば、(それを他の学校にも広めることにより)先生方の事務が減らせる。[小学校・事務職員]
- 特にアンケート調査にとられる時間が多いので、教育委員会では精選し、減らしてほしい。[小学校・管理職]

### (D) 家庭や地域の教育環境の充実

- 親と子供が、時間を共有し、習ったことを生活の中で活用する機会が大切。例えば、親子で買い物に行き、親が子供に、今学校で習っている掛算を使って支払額の計算をさせるなど。[小学校・一般教諭]
- 生活習慣が身に付いておらず、登校時刻までに来ることができない子供がいる。プリント類を子供たちに渡しても、保護者まで届かない、届いてもほとんど捨てられてしまう家庭もある。学習プリントも捨てられてしまうので、学校でファイルしている。[小学校・一般教諭]
- 家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。[中学校・一般教諭]
- 秋田県と同じで、(本校では)地域力が、高い学力に結びついている。学校で何か行事があると、地域の人たちが集まる。[小学校・管理職]
- 学力向上に当たり、学校支援地域本部は重要。地域の人材の活用が大切。[中学校・管理職]

### (E) 学力・学習状況の的確な把握

- (探求を含めた)活用型の検査は、授業改革のきっかけと思われるので、早急な対応を望みたい。[校長意見]
- 応用力を問う学力検査を実施しても、年度ごとの成果を出すことが求められ、長期的な視点で応用力を育成することにつながらない。[パブコメ]



# (A) 教育指導手法の充実

(概念図)

本ページの  
まとめ

市教委による指導手法や教材の開発, 学校への個別支援など, 現場の先生の優れた授業実践を支援することを通じて, 児童生徒の応用力向上等を図る。  
(以下のページで, 具体的な事業案を示す。)

各教室で, 優れた授業が実践できるよう,  
指導手法, 教材等の開発・提供

## ① 指導手法や教材の開発・提供

【優れた指導手法の普及促進, 学習教材の開発・提供】

## ② 授業力向上のための研修や指導

【各教員の指導力向上と意識改革 (特に応用力育成), 学校への個別支援】

## ③ 学習意欲・関心の向上に資する授業の開発・提供等

【学習習慣の定着, より実践的・体験的な学習活動の促進】

## ④ 読書活動の推進

【読書活動の量的充実と質的向上】

優れた授業の実践や教材, 読書活動を通じて,

○ 児童生徒の応用力の向上, 基礎的知識の徹底

○ 児童生徒の学習意欲, 関心の向上

凡例 【継】 〃 : 従来の施策を継続  
 【拡】 : 従来の施策を拡充  
 【新】 : 新規事業

(A) 教育指導手法の充実 [現在の施策と新規・拡充の施策の関連]

		現在の施策	新規・拡充の施策
開発・提供 ① 指導手法や教材の	市教委による指導手法・カリキュラムの開発と提供	○ 基礎と応用両面の、授業力向上の研究と提案授業の開催と公開。(実施回数 H20:9回)	○【継】 〃 ○【拡】上記に加えて、言語活動に関する授業の重点的な研究と、提案授業を通じた普及 ◎【新】思考力育成カリキュラム等の開発[思考力・表現力等を育成する「思考力育成カリキュラム」の開発及び「思考力育成テキスト」作成] ◎【新】思考大会[児童生徒が楽しみながら難問にチャレンジ]
	教材の開発	○ 小5の算数, 中2の数学の学習教材(杜の都の学習シート)	○【拡】ネットでいつでもダウンロード可能に。対象を中1まで拡大(H21)
や指導 ② 授業力向上のための研修	各教員の指導手法・授業の充実	○ 教科指導エキスパートの学校への派遣 ・実施校数(H20):小3校, 中1校 ・教科(H20):算数・数学, 外国語・英語, 国語 ○ 指導主事の学習指導訪問の際, 授業検討会の改善等に関して, 助言	○【拡】実施校数の拡充  ○【継】 〃 ◎【新】「わかる」授業づくりのための土曜講座[教育センターで, 土曜日に授業力向上の研修会開催等]
	学校全体としての指導手法の充実	○ 学校診断カルテ・処方箋の作成と提供	○【継】 〃 ◎【新】学力を中心課題としている学校への訪問指導 [学力支援校への個別支援]
する ③ 学習意欲・関心の向上に資 する授業等の実現	総合的な学習の時間の充実	○ 総合的な学習の時間の指導資料の作成, 配布	○【継】 〃 ◎【新】総合的な学習の時間充実のための施策
	科学への興味・関心の向上	○ 仙台市天文台での学習(中1)	○【継】 〃
		○ 仙台市科学館での実習(中2)	○【継】 〃
	○ 理科支援員の配置 (小学校理科授業における観察・実験活動の準備・補助等。(H20:145人(32回/人))	○【継】 〃	
推進 ④ 読書の	(「子供読書活動推進事業」) ←プランに含めていない事業		(【拡】 本年度末開設予定の子供図書室を中核に, 読み聞かせボランティア充実や乳幼児の読書体験啓発など) ◎【新】読解力向上調査研究 [読解力の向上に結び付く読書の質的向上]

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 応用力育成のための指導手法, 教材が不足
- 基礎的知識の徹底のための, 一層有効な指導手法の提供



#### ② 対応方針

- 市教委が応用力育成, 基礎的知識の徹底に資する授業や教材を開発し, 提供

### 2 具体的な施策案

#### (1) 応用力を育むための授業力向上に関する研究

- ① 内容 : 思考力や表現力の基盤となる「言語活動」の充実のための授業のあり方を, 共同研究校と連携して研究。その成果を市内の小中学校へ普及。
- ② 効果 : 言語活動を充実させることにより, 各教科の学習が深まるとともに, 「応用力」(思考, 表現において言語は基盤となるため)を高めることにつながる。
- ③ 計画 : H21 研究, モデル授業の実践 ([予定]H23 各学校へ普及)

#### (2) 「思考力育成カリキュラム」等の開発

- ① 内容 : 思考力・判断力・表現力等を育成するための「思考力育成カリキュラム」の開発及び「思考力育成テキスト」作成について検討。(小学生対象)
- ② 効果 : 「思考力育成テキスト」等の配付を受け, 各小学校での応用力育成に対する意識と指導力の向上。
- ③ 計画 : H21 テキスト等の検討 ([予定]H23 モデル校での試行, H24 全校での試行)

#### (3) 思考大会

- ① 内容 : 児童生徒が楽しみながら難問にチャレンジしていく「思考大会」を実施。  
・対象:小5・6年, 中学生の希望者  
・問題内容:論理パズルや虫食い算など, 主に論理的思考力を問うもの
- ② 効果 : 普段の学習の中では取り扱わないような問題に挑戦することで, 楽しんで学ぼうとする意欲が高まり, 様々なものの見方や論理的な思考力が身に付く。
- ③ 計画 : H21 実施検討 ([予定]H22 実施)

#### (4) 学習シート

- ① 内容 : 小5の算数, 中2の数学の学習教材(杜の都の学習シート)を, 新学習指導要領の移行措置に対応したものとする。さらに, インターネットでもダウンロード可能に。H21から作成対象を中1にも拡大。
- ② 効果 : 基礎的な問題から応用問題へとステップアップしていくシートの活用で, 基礎的な知識の定着と, 応用力育成に効果。
- ③ 計画 : H21 指導要領の対応, ネットでダウンロード可能, 中1「数学」作成

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 応用力育成のための教員の研修が不十分, 応用力育成の必要性に関する教員間の意識の差
- 基礎的知識の徹底に資する指導手法の, 一層の向上



#### ② 対応方針

- 応用力育成等の研修, 指導の充実
- 特に学力(基礎的知識, 応用力)に課題のある学校への個別支援

### 2 具体的な施策案

#### (1) 若手教員の指導力向上のための教科指導エキスパート事業

- ① 内容 : 教科指導に優れた教科指導エキスパート(退職校長・教員等)を, TTなどの授業補助や模範的な授業の演示, 授業づくりや研修会等での指導・支援に活用し, 若手教員等の授業力向上を図る。
- ② 効果 : 若手教員の教科指導方法の改善などで指導力が向上し, 児童生徒の学力が向上
- ③ 計画 : H21 主に3年目の教員を対象として実施。

#### (2) 「わかる」授業づくりのための土曜講座

- ① 内容 : 教育センターで, 土曜日を利用した授業力向上のための研修会の開催と, 自主研究サークルなどへの活動場所の提供や助成・支援。
- ② 効果 : 教員により, 質の高い指導法や教材の工夫等の研究がなされ, 生徒の学習意欲及び学力等の向上に寄与
- ③ 計画 : H21 実施

#### (3) 学力を中心課題としている学校への訪問指導

- ① 内容 : 学力支援校に特化した施策を実施。(学校への随時の訪問や一定期間の滞在により, 具体策の進捗状況を確認し, 支援)
- ② 効果 : 様々な要因から課題を抱える学力支援校に対して, その解決に向けて市教委として確かな支援を行うことにより, 児童生徒の学力が向上。
- ③ 計画 : H21 実施

## (A) 教育指導手法の充実③

【学習意欲・関心の向上に資する授業等の実現】

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 児童生徒の学習内容への興味や関心の課題, 学習意欲の低下



#### ② 対応方針

- 児童生徒の興味・関心や意欲を高める授業の開発, 提供

### 2 具体的な施策案

#### (1) 総合的な学習の時間充実のための施策

- ① 内容 : 総合的な学習の時間の研修会等を充実させ, 探究型の学習の在り方を中心にした研修を実施
- ② 効果 : 総合的な学習の時間を推進していく中心となる教員を育成し, 各校の総合的な学習の時間の取組を充実。
- ③ 計画 : H21実施

#### (2) 中学生の天文台・科学館学習

- ① 内容 : 中1が仙台市天文台で, 中2が科学館で, 普通の学校の授業では指導困難な専門的学習を実施
- ② 効果 : 充実した施設で, 科学についての専門的知識, 技能を有した指導主事等の授業を受け, 科学への興味・関心を向上。
- ③ 計画 : 継続

## (A) 教育指導手法の充実④

【読書活動の推進】

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 思考力向上に結び付く読書指導の少なさ



#### ② 対応方針

- 思考力向上に結び付く読書活動の研究

### 2 具体的な施策案

#### (1) 読解力向上調査研究

- ① 内容 : 読解力の向上に結び付く読書の質的向上を図るための有効な手法等について, 先進地を視察し, 実施施策を検討。
- ② 効果 : 読解力の向上により応用力を向上。
- ③ 計画 : H21 先進地視察, 実施施策検討。

# (B) 指導体制の充実

(概念図)

本ページの  
まとめ

少人数指導、教員の資質向上等により、授業を通して、きめ細かく、応用力育成等を十分に図ることができる指導体制を確立することにより、児童生徒の応用力の向上、基礎的知識の定着を図る。  
(以下のページで、具体的な施策の方向性を示す。)

きめ細かく、応用力育成・基礎的知識の定着に資する授業ができる指導体制の確立

① 少人数指導の推進  
【個に応じた指導の充実】

② 小学校教科担任制  
【指導の専門性の充実】

④ 教員の資質・能力の向上  
【優れた授業を实践できる、資質・能力の高い教員の確保・育成】

③ 小中学校の連携強化  
【連携による小中の円滑な接続】

配慮の必要な児童生徒への対応  
【個別的な学習支援】(\*)

・資質の優れた教員による、  
・個々の児童生徒に即した、よりきめ細かな授業、指導が実現  
→児童生徒の応用力の向上、  
(配慮の必要な児童生徒を含めたすべての児童生徒の)基礎的知識の徹底

(\*)具体的事業は、P51「(C)確かな学力を育成する上で前提となる環境の整備 ①落ち着いた授業の成立」と重複

# (B) 指導体制の充実

[現在の施策と新規・拡充の施策の関連]

	現在の施策		新規・拡充の施策
① 少人数指導の充実	○ 少人数学級 ・ 小学校1・2年生, 中学校1年生の35人学級 (県費加配)		○【継】 //
	少人数学習	○ 小1・2で30人以下の少人数学習 (市費非常勤講師の配置)  ○ 小3以上で少人数学習(主に算数で実施) ・ 県費による加配の教員配置 ・ ただし, 中1の少人数学習のための加配は原則としてない。	○【拡】 論理的思考力の育成にきわめて大きな役割を果たす数学において, 中1を対象に, 30人以下の少人数指導を可能にするための市費の非常勤講師を配置する。
② 小学校の教科担任制の充実	○ モデル事業として, 11校で小5, 6対象に基礎教科(国語・算数)を中心に教科担任制実施。		○【継】 小学校11校をモデル校とし, 5, 6年の国語, 算数, 社会, 理科を中心に教科担任制を実施。
③ 小中学校の連携の強化	○ 小学校2校で小中一貫モデル事業実施。 → 【終了】		◎【新】小中連携推進事業
④ 教員の資質・能力の向上	研修の充実	○ 初任者研修, 10年経験者研修  ○ 課題のある教員への特別研修	○【拡】5年経験者研修を新設  ○【継】 //
	質の高い教員の確保	○ 教員採用試験の工夫 (18年度から模擬授業の導入など)	○【継】 //

## 1 課題と対応方針

## ① 課題

- 基礎的知識の習得が十分でない児童生徒への対応(\*1)や、応用力育成に必要な、「きめ細かな、かつ、高度な指導(\*2)」に必要な人員の不足

(\*1)基礎的知識の徹底:一人一人、つまづいている箇所は異なるので、各人に即した指導が必要

(\*2)特に数学、理科など数理的思考を要する科目等は、児童生徒の思考過程に論理的な間違いや飛躍がないか等に関して、児童生徒一人一人に対して教師がフォローすることが必要。

## ② 対応方針

- 少人数指導や小学校教科担任制に要する人員の配置

## 2 具体的な施策案

## (1) 中1数学における少人数学習推進事業

- ① 内容 : 中1の数学において、少人数のクラス編制によるきめ細かな指導に必要な非常勤講師の配置
- ② 効果 : 論理的思考力の育成にきわめて大きな役割を果たす数学に関し、その基礎的概念の確実な定着と教師が子供一人一人の思考プロセスを把握し、指導することにより、応用力全般の向上と基礎的知識の徹底。  
(特に、中1の数学では、小学校の算数と比べて、概念の抽象性が大きく引きあがる等の特徴があり、また、中2,3、高校の数学の基礎となり、中1でつまずくと、後の学習に大きな支障となるため、少人数による特に決めこまかな指導が必要)
- ③ 計画 : H21 中1において30人以下の数学の少人数指導を可能に。(市費で20名の非常勤講師を配置)

## (2) 小学年高学年教科担任制モデル事業

- ① 内容 : 5,6年の教科(国語,算数,社会,理科)の理解の定着を図り、子供たちが自信をもって中学校生活に臨めるようにするために、教師の専門性を生かした教科担任制による授業を、モデル事業として実施。
- ② 効果 : 専門的知識をもった一人の教師が同じ授業内容を複数の学級に行うことで、授業の質が向上。担任だけでなく、複数の教師の目で児童のよさを引き出すことができ、児童理解に有効など。
- ③ 計画 : 継続 (H21は、実施科目数追加 ... H20は国・算(この中から1教科以上で実施)→H21は国・算・社・理(この中から2教科以上を実施))

## (B) 指導体制の充実③ 【小中学校の連携の強化】

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 中学校入学時において、環境の変化や中学校の学習に対応できずに、学力の低下や学校不適應などの、いわゆる中1ギャップといわれる課題が発生



#### ② 対応方針

- 小中学校間の連携の強化方策を検討

### 2 具体的な施策案

#### (1) 小中連携推進事業

- ① 内容 : 小中での児童生徒や教員等の人的交流を積極的に推進するとともに、確かな学力の育成や生徒指導面の課題の解決に共に取り組む。
- ② 効果 : 学習の円滑な接続により、生徒の学校不適應の減少と学力の向上。
- ③ 計画 : H21実施

## (B) 指導体制の充実④ 【教員の資質・能力の向上】

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 教員の大量退職や応用力育成の指導の重要性が増す中、資質・能力の高い教員の確保・育成が急務



#### ② 対応方針

- 資質・能力の高い教員の確保・育成のための方策の検討

### 2 具体的な施策案

#### (1) 5年経験者研修の実施

- ① 内容 : 教職5年経験者を対象に悉皆研修として「授業づくり」に特化した研修を実施。
- ② 効果 : 授業づくりについて学び、教科指導法の改善、指導力の向上を図ることで、児童生徒の学力を向上させることが可能となる。
- ③ 計画 : H21 実施

# (C) 確かな学力を育成する上で 前提となる環境の整備

(概念図)

本  
ペ  
ー  
ジ  
の  
ま  
と  
め

落ち着いた授業の成立により、子供たちが授業に集中するとともに、学校事務の軽減、効率化等により指導充実のための時間を確保することにより、児童生徒の学力向上を図る。  
(以下のページで、具体的な施策の方向性を示す。)

確かな学力を育成する上で前提となる環境の整備

## ① 落ち着いた授業の成立

【配慮の必要な児童生徒への対応、小1プロブレムの解消 等】

## ② 学校業務の軽減効率化等

【事務負担の軽減 IT環境の整備 等】

- ・子供たちが授業に集中
- ・配慮の必要な子供たちへ、きめ細かな個別の指導
- ・教員の指導充実のための時間を確保

→落ち着いた授業の中で、教員が工夫を凝らした指導を行うことが可能になる。

配慮の必要な児童生徒を含めたすべての児童生徒の学力向上。

(C) 確かな学力を育成する上で前提となる環境の整備 [現在の施策と新規・拡充の施策の関連]

		現在の施策	新規・拡充の施策
① 落ち着いた授業の成立	配慮の必要な児童生徒への対応	○ 特別支援教育指導補助員の配置 ○ 指導困難学級対策として、非常勤講師配置	○【拡】 特別支援教育指導補助員の配置の拡大 ○【拡】 指導困難学級対策としての非常勤講師配置を拡大
	小1の学校生活への適応の支援		◎【新】小1のための生活・学習サポーター [保護者等が小1のクラスに入り、学校の生活・学習面で、担任をサポート] ◎【新】小学校入学時学習習慣定着プログラム実践事業の検討 [第1学年入学当初はスタートカリキュラムを適用]
② 学校業務の軽減、効率化等	学校業務の軽減		◎【新】学校事務の共同実施及び事務補助員の配置 [各学校共通の事務の共同実施による効率化(その上で事務職員が教員を支援)。事務補助員を配置] ◎【新】市教委からの調査項目の見直し
	教材研究の充実、効率化	○ 職員一人一人へのパソコン配置に向けた整備	○【継】 “ ◎【新】学校のインターネット接続回線の高速化
	授業時数の確保		◎【新】授業日数の拡充 [開校記念日の授業実施や長期休業期間の見直し検討]

# (C) 確かな学力を育成する上で前提となる環境の整備①【落ち着いた授業の成立】

## 1 課題と対応方針

### ① 課題

- 配慮の必要な児童生徒の増加(\*)や、小1生が学校生活への適応に時間を要するなどにより、授業が落ち着かない状況の発生

(\*) 配慮の必要な児童生徒が授業中に教室を飛び出すこと等による、授業中断や他の児童生徒の集中力低下



### ② 対応方針

- 配慮の必要な児童生徒への個別対応や、小1の学校生活への適応に関する支援

## 2 具体的な施策案

### (1) 特別支援教育指導補助プラン

- ① 内容 : 発達障害児に対する学級担任の指導を補助する指導補助員の配置
- ② 効果 : 多動性や衝動性のある児童生徒に対する指導補助員の配置により、教員が授業に専念し、他の児童生徒が学習に集中できる。対象児童生徒も、個別的に支援されることで学習への参加が可能となる。
- ③ 計画 : H21 指導補助員の増員(H20:60名 ⇒ H21:100名)

### (2) 指導困難学級対策

- ① 内容 : 非常勤講師を配置し、教室での一斉授業に入れない児童生徒への学習指導、心の安定のための相談相手など個別の学習指導及び生徒指導。また、授業における教科担任の補助(TT的役割)に活用
- ② 効果 : 当該児童生徒の学校(学級)生活の安定と、教科担任の学習指導の計画どおりの実施が可能に。
- ③ 計画 : H21 非常勤講師の増員(H20:30名 ⇒ H21:50名)

### (3) 小1のための生活・学習サポーター

- ① 内容 : 保護者や地域の方が小学校1年生のクラスに入り、学校での生活・学習面で、担任をサポート。
- ② 効果 : クラスの中に保護者や地域の顔見知りの方など担任以外にも大人が入り手をかけることによって、学校という集団の中に初めて入り、不安感を抱えた小1の児童は安心して落ち着くことができる。環境への迅速な適応が学力の向上にもつながる。
- ③ 計画 : H21 実施

### (4) 小学校入学時学習習慣定着プログラム実践モデル事業

- ① 内容 : 入学直後の児童の小学校生活への適応が図られるよう、第1学年入学当初はスタートカリキュラム(\*)を適用。  
(\*)集団の中での行動の仕方等も内容として含む生活科の時間を増やすなど
- ② 効果 : 入学直後の児童の小学校生活への適応が図られ、生活習慣や学習習慣の定着が推進され、学力向上につながる。
- ③ 計画 : H21 カリキュラム検討 ([予定]H23:全校で試行)

## 1 課題と対応方針

### ① 課題

- 教員の学校業務増等による負担増により, 教材研究や児童生徒と  
かかる時間が減少



### ② 対応方針

- 教員の事務負担軽減, 業務効率化  
の方策の検討
- 授業日数の確保

## 2 具体的な施策案

### (1) 学校事務の共同実施及び事務補助員の配置

- ① 内容 : 複数の学校でグループを組み, 各学校共通の事務について, リーダーが進行管理し, 各職員が分担しながら事務を効率化。その上で, 事務職員が, 教員が行っている事務を支援。
- ② 効果 : 学校事務が効率的かつ安定的に行えるようになり, また, 教員の事務負担が軽減され, 教員の児童生徒への指導充実が一層可能に。
- ③ 計画 : H21 試行

### (2) 学校のインターネット接続回線の高速化

- ① 内容 : 学校のインターネットへの接続回線を高速化し, ネット上の優良な動画コンテンツ等をいつでも活用できるようにする。
- ② 効果 : 動画等の大容量コンテンツの高速ダウンロードや, 授業での動画・音声のスムーズな再生を可能とすることにより, 児童生徒の学習内容の一層の定着が図られる等。
- ③ 計画 : H21 実施

### (3) 授業日数の拡充

- ① 内容 : 管理規則を改正し, 開校記念日の授業実施, 長期休業(春休み, 夏休み, 冬休み)期間の見直しの検討により, 授業日数を拡充。  
(H24:196日→205日)
- ② 効果 : 授業日数の拡充により, 学校の授業日数に余裕が出て, 授業時数を増やすことが容易になる。
- ③ 計画 : H21以降 随時実施

### (4) 市教委からの調査等の縮減

- ① 内容 : 市教委から学校に依頼している調査等を精選し, 縮減を図る。
- ② 効果 : 教員の事務負担の軽減, 子供に向き合う時間の増加
- ③ 計画 : H21以降 随時実施

## (D) 家庭や地域の教育環境の充実

(概念図)

このページ

家庭・地域の学習環境の充実や、企業や大学との連携により、児童生徒の学ぶことの必要性の認識や、学習内容への興味・関心の向上を図る。  
(以下のページで、具体的な施策の方向性を示す。)

### ① 企業や大学との連携，生涯学習施設の活用による教育活動の充実

【職場体験や大学・企業からの人材派遣など】

### ② 地域と連携した幅広い体験活動の充実

【学校支援地域本部など】

### ③ 家庭での学習の充実

【学習習慣の確立を図る方策など】

○ 児童生徒の学ぶことの必要性・面白さの認識

○ 学習内容への興味・関心の向上

○ チャレンジ精神や創造力の育成

○ 家庭での学習習慣の定着により、学力向上

# (D) 家庭や地域の教育環境の充実

[現在の施策と新規・拡充の施策の関連]

	現在の施策	新規・拡充の施策
① 施設 の活用による 教育活動の 充実	○ 仙台自分づくり教育 (H20 3日以上職場体験実施中学校46校)	○【拡】 職場体験活動を実施する中学校を拡充
	○ 小・中学生のためのサイエンス講演会 (H20 特別講演会 2回実施)	○【拡】 講演会の開催回数を拡充
	○ 科学館を利用した学習 (小学生が科学の不思議や楽しさを感じられるよう、年3回「小学生体験実験教室」を開催。さらに、小学校の教員向けに「理科教育実験講座」も開催。)	○【継】 //
	○ サイエンススクール (東北大学工学部で実験の体験等)	○【継】 //
② 地域と 連携した 幅広い体験 活動の 充実	○ 放課後子供教室 (H20は4箇所*) (* 子供未来局所管...児童クラブの待機児童解消が主な目的)	○【拡】 教育局所管 ... 5箇所設置 (* 子供未来局所管 ... 7箇所) 計12箇所
	○ アフタースクール(小学校3校 発明クラブ等)	○【継】 //
	○ 地域で輝く学校づくり事業 (地域との交流会、教育講演会、地域防災訓練など地域の特色を生かし、地域と連携した活動を推進。)	○【継】 //
	○ 学生サポートスタッフ・人材バンク事業 (市立学校からの要請を受け、市教委と連携協力関係にある大学に在籍する学生を、教科指導補助などのボランティアとして派遣してもらう。)	○【継】 //
		◎【新】学校支援地域本部 [学校と家庭・地域のボランティアの力をつなぐ学校支援地域本部を設置]
③ 学習の 充実	○ 家庭学習ノート (上下巻。小3算数・小5国語。親子と一緒に家庭で勉強できるよう内容・構成を工夫。)	○【拡】保護者向けの「規則正しい生活習慣推進リーフレット」を作成、配付。
		◎【新】生徒学習室の設置運用推進 [中学校のコンピューター室、音楽室等を生徒学習室として活用]

1 課題と対応方針

① 課題

- 児童生徒の幅広い体験活動の減少や, 学習内容への興味・関心の課題



② 対応方針

- 企業や大学との連携, 生涯学習施設の活用

2 具体的な施策案

(1) 仙台自分づくり教育

- ① 内容 : 市内中学校の全校による3日間以上の職場体験活動。また, 自分づくり教育の趣旨や具体的方策等について各業界に対して啓発する「自分づくり応援団」を創設, 自分づくり教育を推進するためのコーディネーターやキャリア・アドバイザーの養成・学校への派遣を推進。
- ② 効果 : 児童生徒の学習意欲の向上
- ③ 計画 : H21 職場体験活動を実施する中学校を拡充

(2) 小・中学生のためのサイエンス講演会

- ① 内容 : 大学教授, 研究者等による特別講演会の実施
- ② 効果 : 最先端の研究に触れることにより, 科学への興味・関心を向上。
- ③ 計画 : H21 開催回数拡充

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 児童生徒の幅広い体験活動の減少や、学習内容への興味・関心の課題



#### ② 対応方針

- 地域での幅広い体験活動の充実

### 2 具体的な施策案

#### (1) 学校支援地域本部

- ① 内容 : 学校の求めと地域のボランティアの力をマッチングする体制を作るため、学校支援地域本部を設置。取りまとめ役としてコーディネーターの設置、ボランティアの開拓。
- ② 効果 : 地域の方々が子供と共に活動することにより、学校や家庭・地域の教育活動のさらなる充実、家庭・地域の教育力の向上を図る。
- ③ 計画 : (H20モデル的に3箇所) H21 区ごとに複数設置(計10箇所程度)

#### (2) 放課後子ども教室

- ① 内容 : 地域の方々や保護者、学生ボランティアが主体となって運営に参加し、子供たちにとって安全な放課後の学習支援や遊び、活動の場を学校施設内に確保し提供。人材は有償ボランティアとして対応
- ② 効果 : 地域の人材を生かした学習や地域に根ざした多様な体験活動の場と機会を提供することにより、子供たちの学力向上の基盤の強化と健やかな成長を可能に。
- ③ 計画 : H21 5箇所設置

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 生活習慣の乱れ等による学習習慣の定着不足



#### ② 対応方針

- 家庭での学習習慣の定着に向けた施策の検討

### 2 具体的な施策案

#### (1) 家庭学習推進事業

- ① 内容 : 新学習指導要領の移行措置の内容を取り入れ、「家庭学習ノート」の改訂を行うとともに、家庭学習の習慣や規則正しい生活習慣を身に付けさせるために保護者向けの「(仮称)規則正しい生活習慣推進リーフレット」を作成、配付。
- ② 効果 : 保護者は、家庭学習の習慣や規則正しい生活習慣を身に付けることが学力の向上につながることを理解することができる。
- ③ 計画 : H21 実施

#### (2) 生徒学習室の設置運用推進

- ① 内容 : 各中学校で冷房が設置されているコンピューター室、音楽室等を、生徒学習室として活用する。
- ② 効果 : 冷房が設置されている教室を生徒学習室として活用することで、年間を通じて、学習時間や学習場所を確保することができる。
- ③ 計画 : H21 実施

## (E) 児童生徒の学力・学習状況の的確な把握

### 1 課題と対応方針

#### ① 課題

- 応用力に関して、児童生徒の現状の状況を把握することは不可欠。一方で、現在、応用問題(問題B)を含む全国学力・学習状況調査は小6、中3のみ。本市の標準学力検査は基礎的知識の定着度を測るもの。

#### ② 対応方針

- 本市独自に応用力を問う学力検査を実施

### 2 具体的な施策案

#### (1) 標準学力検査

- ① 内容 : 本市が独自に行っている標準学力検査に、応用力を測る問いを追加する。
- ② 効果 : 児童生徒一人一人の基礎的知識の定着度や応用力の育成具合の把握。各学校では学力向上に対する意識が高まり、授業改善や指導方法の工夫・改善の取組が活発化→児童生徒の基礎的知識等の定着や応用力の育成に有効
- ③ 計画 : H21 実施

## ～結びに～

- 本プランは、本市の子供たちの学力の現状と課題の分析を踏まえ、「基礎的知識の習得が十分でない子供へ、その習得の徹底」、「応用力（思考力・判断力・表現力等）の育成」と「学習意欲の向上」を図る上で必要な施策を提示した。
- 基礎的知識は、本稿の冒頭に示したように、将来子供たちが働く上で、日常生活を送る上で、最低限必要となるものであり、すべての子供が習得することが強く望まれる。しかし、すべての子供に徹底されているとは言い難いのが現状である。
- さらに、社会経済が大きく変化する中、子供たちが生き抜いてくためには、基礎的知識に加え、思考力・判断力・表現力等の応用力が求められる。  
産業界では、国際競争の激化の中、新規分野への進出や既存分野の高度化が求められ、「従来の延長上にはない未知の領域で、状況を論理的に分析し、課題を明らかにした上で対応していく能力」が、より重要になるであろう。  
また、インターネットをはじめとするIT技術の急速な発展により、情報の入手が極めて容易となる反面、情報を論理的に分析した上で活用する力の有無が、日常においてもより良い生活ができるか(\*)ということに、大きく影響するのではないか。  
(\*) ネット上の無尽蔵の情報に容易にアクセスできる現在、大量の情報を迅速に分析・評価できる人と、そうでない人の間には、仕事上、日常生活上の諸場面における判断の妥当性において、決定的な差が生じる。
- 一方で、基礎的知識の習得も応用力の育成も、家庭や地域の教育環境等、本人の努力以外のところに左右される部分も大きいと考えられる。特に、応用力の育成には、大変手間と時間がかかり(\*1)、その傾向が強いのではないか。  
(\*1) 本稿でも、応用力育成のため、多方面の施策、すなわち、応用力に資するきめ細かな指導手法の検討、学習意欲の向上策、さらには、幅広い学習体験まで、幅広い施策を検討した。
- 公教育としてなすべきことは、この現実を直視した上で、すべての子供たちに対して、「家庭の教育環境等の差違にかかわらず、変化の激しい社会で生き抜いていくための力を身に付けることのできる機会、すなわち、基礎的知識の習得を徹底した上で、応用力を身に付けることのできる機会」を提供することであろうと思われる。

このプランの実施により、そのような、すべての子供たちの可能性を広げる公教育の実現を目指していきたいと考える。

# 【参考資料編】

# (参考) 学習指導要領の改訂の経緯(その1)

《終戦後～1950年代》

経験主義(意欲, 体験重視)

[時代背景]

- ・終戦直後
- ・アメリカの教育思想の影響

《1960年代～70年代》

系統主義(読み・書き・計算重視)

[時代背景]

- ・高度成長期
- ・大量の優秀な中堅技術者, 工場労働者の需要

【昭和26年実施】

○ 経験主義の重視

・ 子供の関心や意欲重視

・ 体験, プロセス重視の学習

経験主義への偏りへの反省

【昭和33～35年実施】

○ 系統主義の重視

○ 学習内容の充実

【昭和46～48年実施】

○ 系統主義の一層の強化

○ 学習内容の大幅拡充(\*1), 前倒し(\*2)

(\*1)新しい学習内容として, 集合の概念(中1), 行列(高2)

(\*2)標準偏差(高2→中3へ)

○ 授業時数がピーク(小6で年間1,085)

知識の伝達への偏りへの反省

# (参考) 学習指導要領の改訂の経緯(その2)

《 1980年代 ~ 現在 》 「生きる力」の育成 →

(基礎・基本の精選と思考力・表現力の育成)

[時代背景]

・経済のソフト化, ポスト近代社会

・規制緩和, 国際的な大競争の激化

## 【昭和55~57年実施】

- 基礎・基本の精選(学習内容の先送り等)
- 授業時数の削減(小6で年間1,015)

## 【平成4年~6年実施】

- 「新しい学力観」: 基礎・基本の精選と徹底, 思考力・表現力の育成重視
- 生活科新設(小1,2の理科, 社会の統合)

## 【平成14年~15年実施】

- 「生きる力」: 前回の要領の趣旨を深化 → 「自ら学び自ら考える教育」
- 「総合的な学習の時間」新設
- 基礎・基本の精選の徹底(学習内容の大幅な先送り等)
- 大幅な授業時数削減(小6で年間945)

国際比較調査による学力低下への反省

## 【平成23年(小学校)24年(中学校)~実施予定】

- 改正教育基本法等を踏まえた改訂
- 「生きる力」を育成する理念は継続しつつ, その実現のための具体的手立てを確定
  - ・授業時数の増加(例)  
【趣旨: 学年間での反復学習, 観察・実験やレポート作成, 知識を活用する学習の充実に充てる】  
\* 小学校3~6学年と中学校1~3学年で各35単位時間(週1コマ相当)増加
  - ・教科内容の増加, 学習時期の前倒し(算数・数学の例)  
【趣旨: 「理数教育の国際的な通用性」と「小, 中, 高での学習の円滑な接続」】  
\* 小学校: 台形の面積の求め方(小5(復活)), 反比例(中1→小6)  
\* 中学校: 球の表面積と体積(高1→中1), 2次方程式の解の公式(高1→中3)
  - ・小学校5, 6年で外国語(英語)教育(週1コマ)実施
  - ・「総合的な学習の時間」時間の縮減  
【趣旨: 総合的な学習の時間で, 行われることが期待されていた知識を活用する学習を各教科の中で充実させることとしたため】

# (参考) 理数教育及び言語活動に関する新学習指導要領の考え方

下記は、「幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の改訂等のポイント」(平成20年2月)及び中央教育審議会答申(平成20年1月)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」より一部要約抜粋したもの。今回の改訂で、特に重視されている「理数教育」と「言語活動」を、教科の例としてとりあげた。

## ◎ 理数教育の充実

### 1 課題

- 科学技術が生産性向上、競争力の源泉であるため、科学技術系の人材の育成が重要な課題。  
また、科学技術の成果が社会の隅々まで活用される現在、一人一人の科学の基礎的素養の向上が喫緊の課題。
- 一方で、我が国の子供は、理数系の学習に対して、積極性、意欲が低い。

### 2 改善の方向性

#### ① 授業時数を増加し、下記の活動の時間を十分に確保

- ・ 知識・技能の定着のための繰り返し学習
- ・ 思考力や表現力の育成のため、観察・実験、レポートの作成や論述などの活動、生活との関連を重視

⇒子供たちが学ぶ意義や有用性を実感

#### ② 下記の観点から、必要な指導内容の充実

- ・ 国際的な通用性
  - ・ 内容の系統性の確保や小・中学校の学習の円滑な接続等
- ◎理科(中学校:イオン(高校化学Ⅰ→中3年), 進化(高校生物Ⅱ→中3年)等)

#### ③ 上記のような教育内容の充実を支えるため、下記のような教育条件の整備

- ・ 習熟度別、少人数指導の充実のための教職員定数の改善
- ・ 研修等を通じた教師の専門性の向上 等

## ◎ 言語活動の充実

### 1 課題

- 下記の理由から、言語能力の向上が不可欠。
  - ・ 学力調査の結果、思考力、表現力等に課題があることが判明。言語能力は、これらの力の基盤となるもの。
  - ・ 言語は、知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤。

### 2 改善の方向性

#### ① 国語科を言語力育成の中核を担う教科として、以下のような言語活動を充実

- ・ 漢字の読み書きなど、基本的な国語の力の定着を図る。(特に小学校の低・中学年)
- ・ それに加え、記録、解説、批評などの言語活動を充実させる。

#### ② 国語科において基本的な力(読み書き等)を定着させた上で、各教科等でも記録、論述、討論といった学習活動を充実

- ・ 「知的活動の基盤」という言語の役割に着目
  - ◎ 観察・実験や社会見学のレポートで、事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告。(理科、社会等)
  - ◎ 帰納的な考え方や演繹的な考え方を活用して説明 (数学、理科等)

- ・ 「コミュニケーションや感性・情緒の基盤」という言語の役割に着目
  - ◎ 体験から感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを使って表現 (音楽、図画工作、体育等)
  - ◎ 討論・討議などにより意見の異なる人を説得したり、協同的に議論して集団としての意見を取りまとめ。(道徳、特別活動等)

# (参考)「キー・コンピテンシー」について

【“The definition and selection of key competencies Executive Summary” (OECD’s Definition and Selection of Competencies Projectによる報告書)及びDeSeCoプロジェクトのホームページを参考に作成】

## 1 「キー・コンピテンシー」概念の形成の経緯

- 1997年に、OECDが、DeSeCo(「能力の定義と選択」)プロジェクトを立ち上げ、2003年に最終報告。プロジェクトの目的は、
  - ・ キー・コンピテンシーの概念を明確化 (identification) するための、適切な概念的枠組みを提供すること
  - ・ 国際的調査を充実すること
  - ・ 教育制度と生涯学習のための、包含的な目標を定義すること

## 2 「キー・コンピテンシー」概念の必要となる背景等

- キー・コンピテンシーは、個人の「良き人生(successful life)」と、「社会の良好な機能 (well-functioning society)」のため、社会的、経済的に必要なものを、慎重に検討することにより決定されるべきもの。
  - ・ 個人にとっての「成功」
    - ： 充実した職業や収入、個人的な健康や安全、政治的参加、社交関係
  - ・ 社会にとっての「成功」
    - ： 経済生産性、民主的な手続き、社会的なまとまり、公正さや人権、環境の持続可能性
- 「変化、複雑、相互依存」に特徴付けられる社会に適合するため、個人はキー・コンピテンシーを身に付けることが必要である。このキー・コンピテンシーは、下記のような社会において、ふさわしいものである必要がある。
  - ・ 技術が急激かつ継続的に変化しつつある。それを扱うための学習には、手順の一回限りの習得だけでなく、順応性も求められる。
  - ・ 社会が一層、多様化し、個別化している。それ故、個人の間関係は、自分とは異なった者との接触が求められる。
  - ・ グローバル化が新しい形での相互依存を作り出している。個人の諸活動は、個人の居住地域や国境をはるかに超えた、経済競争などの影響や公害などの結果に左右される。
- 上記の各課題は、異なった場所と各状況下で、様々な形で現れるが、キー・コンピテンシーは、複数の場面で有用であり、すべての人に必要なものである。

## 3 具体的なキー・コンピテンシー概念

- ① 下記の②に示す、三つの概念の基礎となる項目
  - キー・コンピテンシーの中心となるのは、「深く考え、行動すること(think and act reflectively)」である。
  - 「深く考えること」には、公式や方法を機械的に当てはめる能力だけでなく、変化に対応し、経験から学び、批判的立場で考え行動する能力が含まれる。
  - キー・コンピテンシーは、「単なる教えられた知識」以上のものではあるが、望ましい学習環境の中で、学ぶことが可能である。
- ② 三つの概念
  - 社会・文化的、物理的ツールを、相互作用的に活用する能力
    - ・ 言語、計算等の数学的技能を、様々な状況の中で有効に活用すること
    - ・ 情報そのものの性格(その社会的、文化的背景など)に関し、批判的に深く考えること(情報の質や価値の評価、知識や情報の系統立った整理等)
    - ・ 個人が、日々の生活の中で、技術を用いる上での新しい方法に気付くこと
  - 多様な社会グループにおける人間関係形成能力
    - ・ 他者と良好な関係を保つ能力(他者の置かれている状況を理解する能力等)
    - ・ 他者と協力する能力(自分の考えを他者に提案する能力等)
    - ・ 紛争をうまく処理し、解決する能力
  - 自律的に行動する能力
    - ・ 大局的な観点から行動する能力
    - ・ 人生設計や個人的な企てを作り、実行する能力
    - ・ 権利、利益、限界、必要性を主張する能力

### ※ PISAとキー・コンピテンシーの関連

- PISAは、キー・コンピテンシーの枠組みに沿って出題。(生徒が)どれほど深く考えることができるかを測ることを目標としている。
- PISAの「読解力」は、生徒が、情報の所在場所を見つけ、説明できるかだけでなく、彼らが深く考え、読んだものを評価できるかを測定するものである。(例えば)批判的に仮説を評価し、予想と異なる概念を適切に扱える場合はレベル5(最高レベル)となる。

# (参考)PISA及び全国学力・学習状況調査の趣旨等について

## 【PISA】

(「PISA 2006 Science Competencies for Tomorrow's World(OECD)」及び「Assessing Scientific, Reading and Mathematical Literacy: A Framework for PISA 2006」(OECD)より一部要約抜粋)

### (1) PISAのコンセプト:「リテラシー」

- 下記のような生徒の能力と関連。このリテラシーの概念は、伝統的な読み書きの能力の概念よりも、はるかに広いもの。
  - ・ 学んだことから推定し、未知の状況の中で知識を活用する能力
  - ・ 様々な状況の中で、生徒が問題を提起し、解決し、解釈する際に、分析し、論理的に思考し、効果的に伝える能力
- リテラシーの習得は、学校等だけでなく、家族、同僚、そして幅広いコミュニティ等の中で、生涯かけて行われるもの。(そのためには、)15歳の時点で、大人ほどでないにしても、読解力、数学、科学の分野で、確固たる知識の基礎を持つ必要がある。
 

また、学び続け、その学びを実生活の中で活用するためには、彼らはそれらの基本的なプロセスと原則を理解し、そして異なった状況下でそれらを使う必要がある。

### (2) PISAが測定するもの:

主要な概念の幅広い理解の下で、実生活に関連する課題を解決する能力(各教科の特定の知識の理解に限らない)

### (3) PISA2006における測定分野(各リテラシー)の定義等

- ① 科学的リテラシー:
  - ・ 科学的知識を持ち、その知識を、問題を明確化し、新しい知識を習得し、科学的な現象を説明し、科学に関連する事柄に関して証拠に基づいた結論を導き出すために、用いること
  - ・ 人間の知識や探求という形としての、科学の特徴的な様相を理解すること。
  - ・ 科学が、いかに、我々の物質的、知的、文化的な環境を形作ってきたかということを知ること。
  - ・ 思慮深い市民として、科学的な考えを持ち、科学に関連した事柄に携わる(engage)すること

### ② 読解力:

- ・ 個人の目標を達成し、個人の知識と潜在力を開発し、また、(個人が)社会に参加するため、文書(written texts)に関して、理解し、用い、深く考える能力。(生徒たちが、彼らの生活の中で遭遇する状況の中で、文書化された情報を使う能力に重点を置く。)
- ・ 解読や字句どおりの(文章)理解に加え、リテラシーとしての読解力は、読解、解釈、熟考、そして、人生の目標を達成する上で読解を用いる力を含む。

### ③ 数学的リテラシー:

- ・ 個人の下記のような能力
  - @ 世界において、数学が果たす役割を確認し、理解する能力
  - @ 建設的で、関心が高く、思慮深い市民として、個人の人生におけるニーズを充たす方法で、数学により根拠のはっきりした判断を行い、また、数学に携わる能力

### (3) PISAがユニークな点

- PISAは、(TIMSSなど)国際教育到達度評価学会(IEA)等による国際的な学力調査とは、調査する知識と技能(skill)において下記のように異なっている。
  - ・ IEA等の調査は、参加国に共通の学習内容(curriculum)に特化したもの。
  - ・ PISAは、学校の学習内容の共通項でなく、将来の生活に不可欠と考えられる技能を測定する。PISA(の内容)は参加国の学校で教えられる共通項に、拘束されない。

## 【全国学力学習状況調査】

(下記は、「平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント(国立教育政策研究所)より抜粋)

### ①教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]	主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li> <li>・ 実生活において不可欠であり常に活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用するなどにかかわる内容</li> <li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li> </ul>

### ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

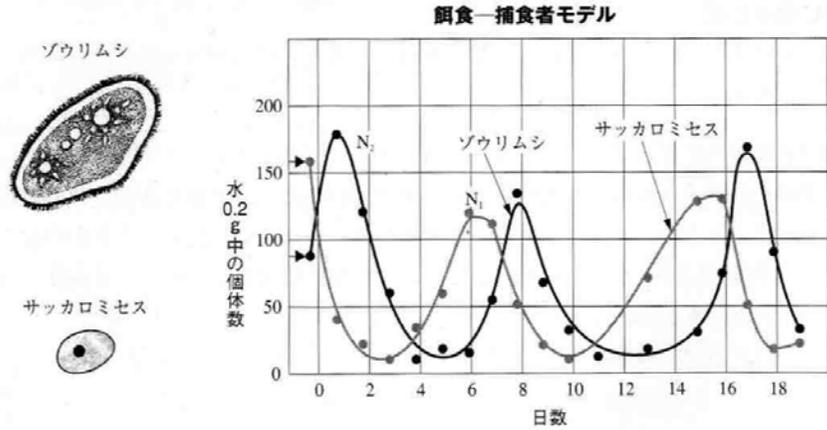
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

# (参考)PISAの問題例

## ◎ 数学的リテラシー

### 数学的リテラシー問題例7: 餌食—捕食者

下のグラフは2種類の微生物——ゾウリムシとサッカロミセス（ビール酵母等）——の増殖の様子を示したものです。



#### 餌食—捕食者に関する問

2つの生物の一方(捕食生物)がもう一方(餌)を食べます。グラフから、どちらが捕食生物で、どちらが餌になっていると考えることができますか。

また、餌と捕食生物の現象について、捕食生物の増殖の速度は入手可能な餌の数に比例していると説明することができます。このことは、上のグラフにも当てはまりますか。

### 数学的リテラシー問題例5: 学校遠足

ある学校ではクラスで遠足に行くことになり、バスを借りたいと考えています。そこで3つの会社に連絡して、料金について聞きました。

A社は基本料金375ゼット、走行距離1km当たり0.5ゼットが加算される。

B社は基本料金275ゼット、走行距離1km当たり0.75ゼットが加算される。

C社は200kmまで一律350ゼットで、200kmを越える分については1km当たり1.02ゼットが加算される。

#### 学校遠足に関する問

遠足の走行距離が400kmから600kmの間であるとすると、そのクラスはどの会社のバスを借りたらよいでしょうか。

## ◎ 科学的リテラシー

### 【S515 健康上のリスクがあるか？】

・あなたが、農業用の肥料を生産する大きな化学工場の近くに住んでいると仮定します。この地域では、長期にわたって呼吸器系の障害で苦しんでいる人々がいます。地域住民の多くは、これらの症状は、近くの化学肥料工場が排出している有毒ガスが原因であると考えています。

化学工場が将来、地域住民の健康に及ぼすかもしれない危険性について話し合う住民集会が開かれました。科学者たちは、集会で次のようなことを述べました。

#### ○ 化学薬品会社に雇われた科学者が述べた内容

「この地域の土壌の毒性を調査したところ、集めたサンプルからは、毒性のある化学薬品の証拠は見つかりませんでした。」

#### ○ 地域住民に雇われた科学者が述べた内容

「この地域で長期にわたる呼吸器系障害の発生件数を、化学薬品工場から遠くに離れた地域と比較したところ、化学薬品工場の方の方が、件数が多いことが分かりました。」

問1 化学薬品工場の所有者は、会社に雇われた科学者が述べたことを利用して「工場から排出ガスによる、地域住民への健康上のリスクはない」と主張しています。

会社側に雇われた科学者が述べたことが、工場の所有者の言い分を指示しているかどうか疑わしい理由を1つあげてください。

問2 地域住民側の科学者は、化学薬品工場の周辺における長期にわたる呼吸器系の障害の発生件数を、化学薬品工場から遠く離れた地域のそれと比較しました。

この比較で適切でなかったと思えるような、2つの地域の違いを1つ答えてください。

# (参考)PISAの問題例

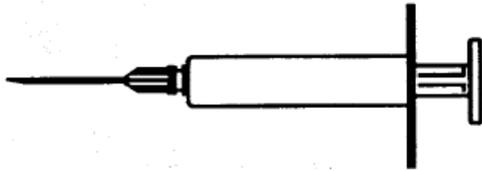
(「PISA調査(読解力)の公開問題例 文部科学省(H17.1)」より)

## ◎ 読解力

### ACOL社インフルエンザ予防接種のお知らせ(自由接種)

ご存知のように、冬にはインフルエンザがまたたく間に広がって、それにかかった人が何週間にもわたって体調を崩すことがあります。

ウイルスに負けない最善の方法は、健康で抵抗力のある身体を維持することです。侵入してくるウイルスを免疫システムで防ぐには、毎日運動することや、野菜と果物をたくさんとることが非常に大切です。



気づかないうちにウイルスが社内に広がるのを防ぐ第二の方法として、ACOL社は社員のために、インフルエンザの集団予防接種を計画しました。そこで、11月17～23日の週に勤務時間内の半日をあて、社内で看護婦が予防接種を実施することにしました。社員はだれでも、この予防接種を無料で受けられます。

接種は自由です。予防接種を希望する社員は、同意書(アレルギー体質でないこと、多少の副作用が出る可能性を了解していることを記したもの)に押印しなければなりません。

医学的には、予防接種によってインフルエンザにかからなくなるとされています。ただし、だるさや微熱のほか、腕が痛くなるなどの副作用が生じることがあります。

#### 予防接種を受けた方がいい人

ウイルスへの予防をしたい人ならだれでも。

この予防接種は、とくに65歳以上の人にお勧めします。また、とくに心臓、肺、気管支、糖尿などの虚弱性の慢性病を抱える人には、年齢に関係なく全員にお勧めします。

職場では、だれもがインフルエンザにかかる可能性があります。

【右欄に続く】

#### 予防接種を受けてはいけない人

タマゴに対してアレルギーのある人、急性の熱病にかかっている人、妊婦。

現在薬を飲んでいる人や、過去にインフルエンザの予防接種でアレルギー反応が認められた人は、かかりつけの医師に相談してください。

11月17～23日の週に予防接種を希望する社員は、11月7日(金)までに人事部の町田まで連絡してください。日時は、看護婦の手配、希望者数、社員の都合を考慮して決めます。この冬にそなえて予防接種を希望していても、決められた日時に都合がつかない場合は、町田まで連絡してください。不都合な人が多い場合は、別の日時に実施する場合があります。

詳しくは、町田(内線5577)までお問合せください。

# 健康第一

[次ページへ続く]

## ◎ 読解力

### インフルエンザに関する問2

この通知の内容(何を述べているか)について考えてみましょう。

そのスタイル(内容を伝える方法)について考えてみましょう。

町田さんは、この通知を親しみをこめて誘いかけるスタイルにしたいと考えました。

うまくできていると思いますか。

通知のレイアウト、文体、イラストなどについて詳しく述べながら、そう考えた理由を説明してください。

### インフルエンザに関する問4

通知の一部に以下のように記されています。

予防接種を受けた方がいい人

ウイルスへの予防をしたい人ならだれでも。

町田さんは、通知を配った後で同僚の一人から、「ウイルスへの予防をしたい人ならだれでも」という語句は誤解を招くから、省いたほうがよかったと助言されました。

あなたも、この語句は誤解を招くから、省いたほうがよかったと思いますか。

具体的な理由を示して意見を述べてください。

### インフルエンザに関する問5

通知によると、町田さんに連絡しなければならないのは、次の社員のうちだれですか。

- A 売り場の鈴木さん。生まれつき備わっている抵抗力に頼ったほうがよいと考えて、予防接種を希望しない。
- B 販売の吉田さん。予防接種プログラムが義務かどうか知りたがっている。
- C 郵便課の渡辺さん。この冬に予防接種を受けたいが、2か月後に出産を控えている。
- D 経理課の青木さん。予防接種を希望しているが、11月17日の週は休暇を予定している。

# (参考)全国学力・学習状況調査(問題B)の例

## ◎ 小6国語 (本市正答率35.4% 無回答率11.6%)

3 図書委員の木村さんたちは、学校のみんなが自分たちの町の図書館をもっと利用するようになればいいと考えています。次は、木村さんたちの町にある梅山市立図書館が市内の小学生に配布した「図書館だより」です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

梅山市内の小学生のみなさんへ

### 図書館だより★5・6月号

梅山市立図書館

梅山市立図書館は、みなさんが利用しやすいようによくふっています。どんどん利用してください。

**■図書館が開いている曜日・時間**

- ◇火曜日から金曜日  
午前9時から午後8時まで
- ◇土曜日・日曜日  
午前9時から午後5時まで

※休日は、毎週月曜日

**■本の貸し出しについて**

- ◇一人5冊までとし、2週間以内  
に交付して返してください。

**■読書相談日**

- 1・2年生→火曜日
- 3・4年生→水曜日
- 5・6年生→金曜日

※図書館員が、決められた曜日の閉館時間内に相談にのります。

**■本を探すとき**

- ◇コンピュータを使うことができます。使い方が分からないときは、係の人に聞いてください。

◆読書情報◆あなたは、どのくらいの時間、本を読んでいますか？  
[家や図書館での一日の読書時間] (平成19年4月調査)

時間	割合 (%)
全くしない	20
1分～29分	40
30分～59分	20
1時間以上	20

(全国の6年生約110万人を対象にした。土曜日・日曜日を除く。マンガや雑誌はふくまない。)

**★5月・6月の図書館行事★**

**【人形劇】**  
・「スーホの白い馬」  
・5月29日(木)  
・15:30～16:00

どなたでも参加できます

**【読み聞かせ】**  
・「からすたろう」  
・6月15日(日)  
・14:30～15:00

一 略

二 木村さんたち図書委員は、「図書館だより」を読んで、「家や図書館での一日の読書時間」について話し合いました。次は、そのときの記録の一部です。あなたなら、ウのところでどのような内容を発表しますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【話し合いの記録の一部】

司会 「図書館だより」をもとに、「わたしたち六年生の読書時間を増やすこと」をテーマとして話し合います。「図書館だより」の中のグラフから分かったことと、それをもとにして考えたことを発表してください。

木村さん 家や図書館で一日に一時間以上読書をする六年生は、約十八%もいることが分かりました。わたしは、それほど読書をしていないので、時間を計画的に使って、もっと本を読もうと考えました。

あなたの発表

ウ

～(話し合いが続く)～

【条件】

- 話し合いのテーマに合わせて、グラフから分かったことと、それをもとにして考えたことを書くこと
- 分かったことについては、木村さんの発表の内容と同じにならないこと
- 八十字以上百字以内にまとめて書くこと

# 確かな学力の育成

## 「応用力育成」の実現

## 「学習意欲向上」の実現

## 「習得が十分でない子供へ基礎的知識の徹底」の実現

### 応用力育成のための授業・指導の充実

**【課題】**  
 応用力育成のための教材、指導手法が不十分、思考力向上と結び付く読書指導の不足

**【対応する施策】**  
 [指導手法や教材の開発・提供]  
 ○応用力を育むための授業力向上に関する研究  
 ○「思考力育成カリキュラム」等の開発  
 ○「思考大会」の実施  
 ○学習シートの作成

**【課題】**  
 応用力育成のための研修が不十分、必要性の意識（教員間の差）

**【対応する施策】**  
 [授業力向上のための研修や指導]  
 ○若手教員の指導力向上のための教科指導エキスパート事業  
 ○「わかる」授業づくりのための土曜講座  
 ○学力を中心課題としている学校への訪問指導

**【趣旨】**  
 ・応用力に関する意識向上と研修機会の充実。  
 ・特に学力を中心課題とする学校に対しては市教委と学校が共同して対応

### 幅広い体験学習の充実、児童生徒の興味関心の向上

**【課題】**  
 幅広い体験学習の減少、学習内容への興味関心の課題

**【地域での幅広い体験学習の充実】**  
 ○学校支援地域本部  
 ○放課後子ども教室

**【企業や大学との連携】**  
 ○仙台自分づくり教育  
 ○小・中学生のためのサイエンス講演会

**【学習意欲・関心の向上に資する授業の開発・提供】**  
 ○総合的な学習の時間充実のための施策

**【趣旨】**  
 ・「**学習内容への高い興味・関心**」(1)と「**幅広い体験活動**」(2)が、**一層必要**。  
 (1) 基礎的な未知の問題に対応する上で不可欠  
 (2) 思考力・表現力育成には、多様な考えをもつ人々との熱い合い、机の上だけでなく幅広い体験活動が不可欠

**【趣旨】**  
 ・「**趣旨】** 学校外の方々、諸機関との連携により、幅広い体験、学習の場の提供

### 学習習慣の定着

**【課題】**  
 学習習慣の定着不足

**【対応する施策】**  
 ○家庭学習推進事業  
 家庭での自学自習を促進する教材の開発  
 ○家庭学習ノート

○生徒学習室の設置運用推進

### 基礎的知識徹底のための授業・指導の充実

**【課題】**  
 一層の指導手法の向上

**【対応する施策】**  
 授業力向上のための研修や指導  
 ○学力を中心課題としている学校への訪問指導

**【課題】**  
 一層の基礎的知識の徹底に役立つ教材、指導手法の提供

**【対応する施策】**  
 [指導手法や教材の開発・提供]  
 ○学習シート

## 応用力と基礎的知識の課題に対応した、きめ細かな授業・指導を可能とする、「十分な人員」と「質の高い教員集団」の確立

**【課題】**  
 ○学校現場で、応用力育成、基礎的知識の徹底に不可欠な、きめ細かな指導、より専門的な指導のために必要な人員の不足

**【対応する施策】**  
 [趣旨]児童生徒一人一人に対する、きめ細かな専門的指導を行う上で不可欠な、少人数指導等に必要な人員の配置

**【少人数指導の推進】**  
 ○中1数学における少人数指導推進事業

**【小学校教科担任制の推進】**  
 ○小学校高学年教科担任制モデル事業

**【教員の資質・能力の向上】**  
 ○5年経験者研修の実施

**【小中学校の連携強化】**  
 ○小中連携推進事業

**【授業時数の確保】**  
 ○授業日数の拡充

**【趣旨】**少人数指導等を効果的に実施する上で、教員体制の面で前提となる要素の充実  
 ・高い資質、意欲を持った教員の育成、確保  
 ・小学校と中学校との連携(個々の児童生徒に関する引継ぎ、中学校の教員の小学校での授業など)

**「指導体制」の整備(+α)**  
 ○特別支援教育指導補助プラン  
 ○小1のための生活・学習サポーター

## 「落ち着いた授業」の中で、「学習意欲が向上した児童生徒」に対し、「教員が工夫をこらした指導」を行うことが可能に

**確かな学力を育成する上での「前提条件」の整備**

**子供たちが授業に集中**

**【課題】**  
 ○授業中、子供たちが集中できない状況の発生(授業中じっとしていない個別の配慮の必要な子供等の増加等(特に小1))

**【対応する施策の例】**  
 ○特別支援教育指導補助プラン  
 ○指導困難学級対策  
 ○小1のための生活・学習サポーター  
 ○小学校入学時学習習慣定着プログラム実践モデル事業

**教員が指導充実のための時間を確保**

**【課題】**  
 ○学校業務増等により教員が多忙化し、教材研究や、子供一人一人に接する時間が減少

**【対応する施策】**  
 ○学校事務の共同実施及び事務補助員の配置  
 ○学校のインターネット接続回線の高速化  
 ○市教委からの調査等の縮減

**子供たちの学習意欲の向上**

**【課題】**  
 ○少子化に伴う大学全入時代の到来  
 ○社会とのかかわりの希薄化  
 ⇒学習意欲の低下

**【対応する施策の例】**  
 ○仙台自分づくり教育  
 ○総合的な学習の時間充実のための施策

学力・学習状況の的確な把握  
 ↓  
 応用力育成と、基礎的知識の徹底を目指した教育体制がうまく機能しているかを分析し、フィードバック  
 【施策】 標準学力検査